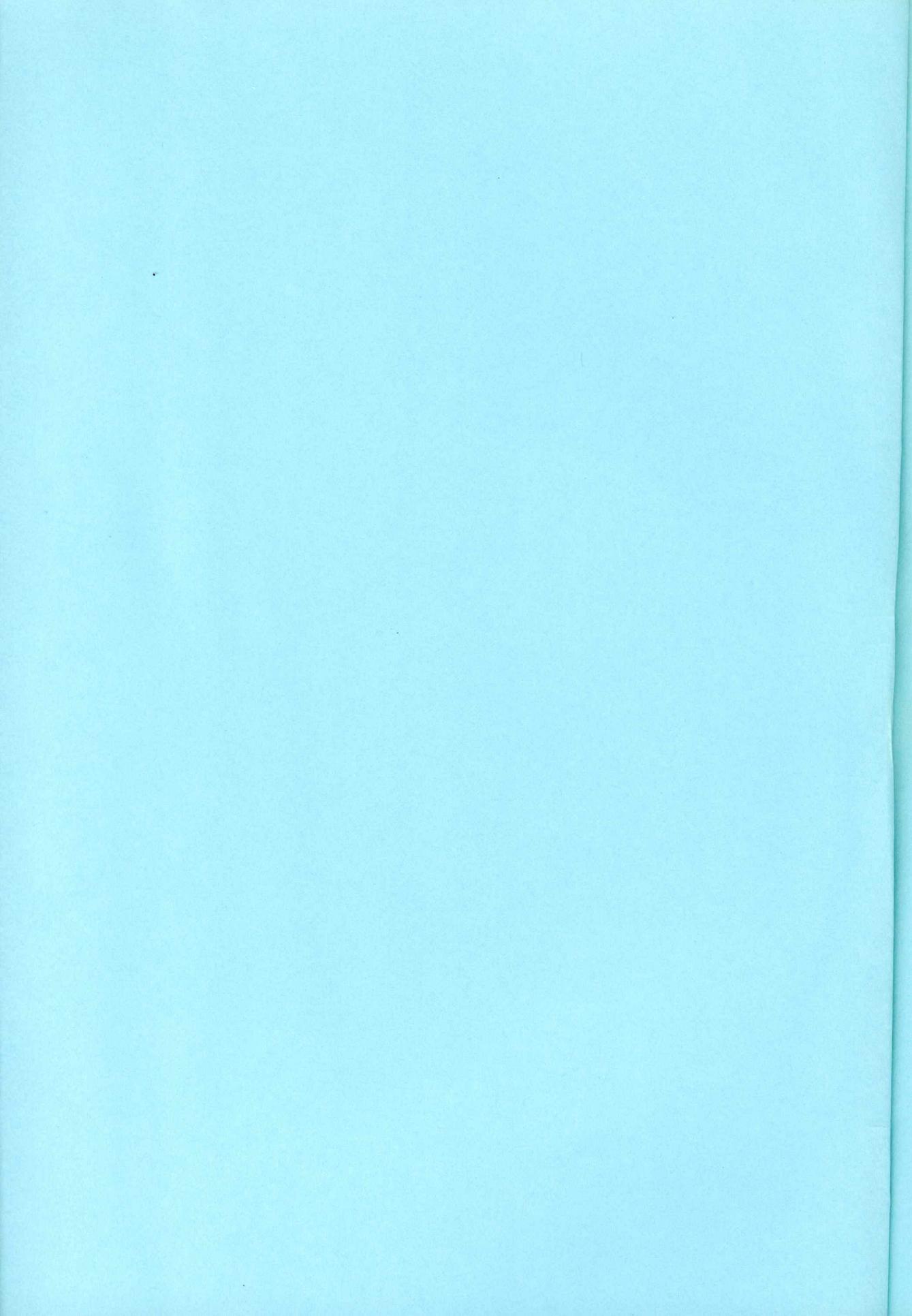


みる・かたる・つくる

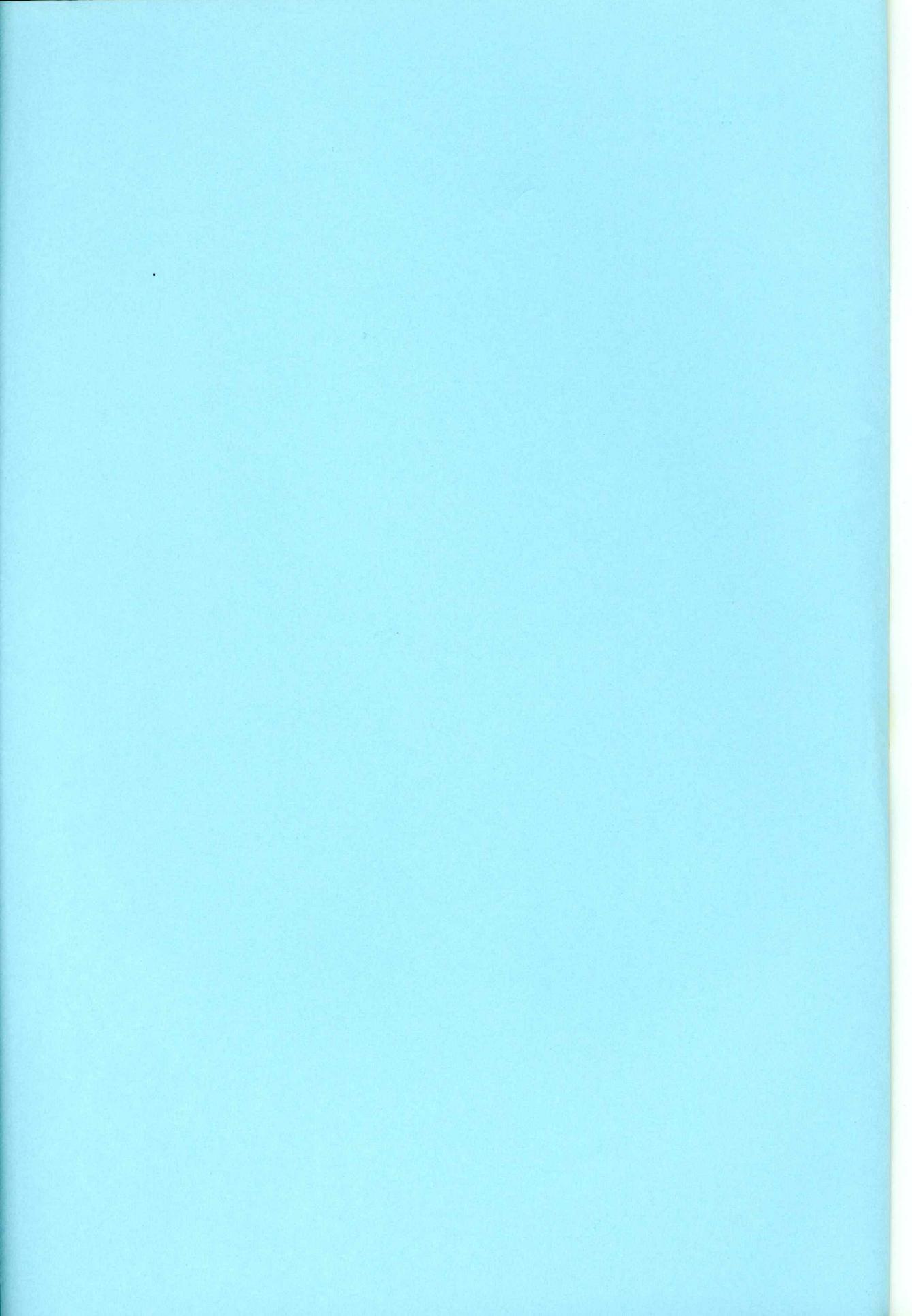
千葉県立美術館年報

平成5年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART









千葉県立美術館外観

目 次

ごあいさつ	1
沿 革	2
美術館誌	3
事業一覧	4
展示事業	5
常設展	6
特別展	14
企画展	18
普及事業	24
教育普及	25
情報資料室	28
刊行物一覧	32
活動協力	32
調査・収集事業	36
収蔵資料	37
客員研究	39
管理運営	40
機 構	41
利用状況	43
展示室利用団体	44
施 設	48
関係法令等	52
平成6年度主要事業	53
平成6年度職員	54
利用案内	55

ごあいさつ

平成5年度の千葉県立美術館活動の実績を年報としてまとめました。

本館は、昭和49年の開館以来の運営方針であります“みる・かたる・つくる”を基本として、県民の美術に対するさまざまな要望にこたえるよう努めてきております。

5年度は、特別展として、「デ・キリコ展」と、「ミレーと浅井忠の出会い — パルビゾン派と日本」を開催しました。企画展としては、房総の美術家シリーズの第23回展として、「秋山逸生展」を開催し、全国的な公募展として「第6回現代日本具象彫刻展」を実施しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、一層の充実、強化に努め、常設展を3期にわけて種々のテーマに基づき開催したほか、館外における移動美術館も2地域で実施しました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、特別展、企画展に関連づけて美術講演会を開催するとともに、美術の各分野にわたる実技講座を実施し、ますます高まっている県民の美術創作への意欲にこたえてまいりました。

さらに、本館が収蔵すべき作品の収集については、既に策定されている基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得ながら、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関や各団体をはじめ、皆様方の御指導と御支援をお願いいたします。

平成6年4月

千葉県立美術館長

木村卓

沿 革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月に増築工事の展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和44年12月9日 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)

昭和45年1月19日 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される

昭和45年7月24日 建設地として千葉公園に内定する

昭和45年11月12日 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)

昭和46年3月31日 千葉公園内の美術館基本構想成る

昭和46年6月24日 体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる
代案として千葉市中央港埋立地が提示される

昭和47年1月5日 建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する

昭和47年3月31日 基本設計完了する(株式会社大高建築設計事務所)

昭和47年7月31日 展示棟 第1期工事の実施設計完了する

昭和47年9月21日 展示棟杭打工事着工

昭和47年10月13日 展示棟建築工事請負契約議案可決される

昭和47年12月10日 展示棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所, 施工・株式会社竹中工務店)

昭和48年4月1日 文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる

昭和48年11月30日 管理棟(第2期工事)の実施設計完了する

昭和49年3月31日 展示棟竣工

昭和49年4月1日 千葉県立美術館発足する(職員14名)

昭和49年10月23日 開館記念式典を行う

昭和49年10月24日 開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める

昭和50年2月21日 管理棟杭打工事着工

昭和50年3月13日 管理棟建築工事請負契約議案可決される

昭和50年3月16日 管理棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所, 施工・株式会社竹中工務店)

昭和51年2月20日 管理棟竣工

昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する

昭和51年6月7日 寄附によって、正面玄関に植栽を行う

昭和52年3月12日 彫刻の屋外展示を始める

昭和52年4月10日 展示棟の一室に美術普及室を開設する

昭和53年1月18日 外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる

昭和53年2月21日 美術普及棟の準備会が発足する

昭和53年10月17日 美術普及棟建築予算が計上される

昭和53年11月18日 浅井忠像 完成除幕式

昭和53年11月30日 美術普及棟実施設計完了する

昭和54年1月8日 美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する

昭和54年3月5日 県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される

昭和54年3月22日 県民アトリエ棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所, 施工・株式会社竹中工務店)

昭和55年2月29日 県民アトリエ棟竣工

昭和55年3月16日 県民アトリエ棟完成記念講演会

昭和55年4月1日 千葉県美術品取得基金条例施行される

昭和55年9月9日 県民アトリエ棟情報資料室を開設する

昭和58年7月29日 美術普及コーナーを開設する

昭和58年11月12日 開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する

昭和61年3月25日 展示棟, 収蔵庫, 機械室増築工事設計料の予算化

昭和61年4月10日 入口門扉4カ所設置

昭和61年4月23日 美術館西側沿道寄りの生垣植栽

昭和61年8月12日 講堂浸水防止工事

昭和62年3月25日 機械室増築基本設計及び展示棟, 収蔵庫, 機械室増築工事実施設計完了する

昭和62年10月15日 展示棟, 収蔵庫, 機械室増築工事着工(監理・大高建築設計事務所, 施工・株式会社竹中工務店)

昭和63年 5月20日 受水槽設備改修工事（地上式）着工
 昭和63年 8月31日 受水槽設備改修工事（地上式）完了する
 昭和63年 8月31日 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事完了する
 平成元年 2月28日 増築展示棟周辺芝張工事完了する
 平成元年 4月 1日 普及課が新設され、3課となる
 平成元年 4月20日 開館15周年記念特別展「房総と近代美術」を開催する
 平成元年 9月11日 空調機改修工事実施設計完了する
 平成2年 6月 8日 空調機改修工事完了する
 平成2年 9月29日 収蔵庫（第1、2室）冷凍機改修工事着工
 平成2年11月 7日 案内標識改修工事着工
 平成3年 1月31日 収蔵庫（第1、2室）冷凍機改修工事完了する
 平成3年 2月20日 案内標識改修工事完了する
 平成3年12月 6日 空調用ポンプ改修工事完了する
 平成4年 4月 1日 運営の一部が(財)千葉県社会教育施設管理財団へ委託される
 平成4年10月20日 温湿度記録装置改修工事完了する
 平成4年12月18日 食堂改修工事完了する

平成5年度美術館誌

4月 1日 辞令交付
 常設収蔵作品展第Ⅰ期（7月11日まで）
 5月18日 日本画講座（6月2日まで 日数12日）
 6月 5日 特別展「デ・キリコ展」（7月11日まで）
 8日 陶芸講座1（7月21日まで 日数9日）
 15日 版画講座（6月30日まで 日数12日）
 7月 3日 第1回美術講演会
 17日 常設収蔵作品展第Ⅱ期（10月11日まで）
 23日 洋画講座1（8月5日まで 日数10日）
 26日 博物館実習（7月31日まで）
 9月 4日 特別展「バルビゾン派と日本」展
 （10月11日まで）
 18日 第2回美術講演会
 25日 ミュージアムコンサート
 10月 2日 第3回美術講演会
 19日 彫刻講座（11月2日まで 日数12日）
 11月 9日 陶芸講座2（12月16日まで 日数9日）
 11日 洋画講座2（11月25日 日数10日）
 17日 企画展「第17回千葉県移動美術館」
 （睦沢ゆうあい館、11月30日まで）
 20日 企画展「秋山逸生展」（12月24日まで）
 27日 第4回美術講演会
 30日 書芸講座（12月2日まで 日数3日）
 12月 3日 企画展「第17回千葉県移動美術館」
 （山田町公民館、12月16日まで）
 4日 常設収蔵作品展第Ⅲ期（3月27日まで）
 11日 企画展「第6回現代日本具象彫刻展」
 公募作品搬入（12月12日まで）
 16日 企画展「第6回現代日本具象彫刻展」
 審査会
 1月17日 企画展「第6回現代日本具象彫刻展」
 入選者発表
 25日 金工講座（2月9日まで 日数12日）
 2月 4日 企画展「第6回現代日本具象彫刻展」
 授賞式・オープングレセプション
 5日 企画展「第6回現代日本具象彫刻展」
 （2月27日まで）
 19日 第5回美術講演会

事業一覽

月	み	る	か	た	る	つ	く	る
4	常設収蔵作品展 (第Ⅰ期)	4/1~7/11						
								日本画講座 5/18~6/2 (日数12日)
6	特別展「デ・キリコ展」	6/5~7/11						陶芸講座 1 6/8~7/21 (日数9日) 版画講座 6/15~30 (日数12日) ⓧ洋画入門講座 1 6/22~27 (日数6日)
7	常設収蔵作品展 (第Ⅱ期)	7/17~10/11	第1回美術講演会	7/3				ⓧ洋画入門講座 2 7/6~11 (日数6日) 洋画講座 1 7/23~8/5 (日数10日)
8								ⓧ洋画入門講座 3 8/24~29 (日数6日)
9	特別展「バルビゾン派と日本」展	9/4~10/11	第2回美術講演会	9/18				ⓧデッサン入門講座 1 9/7~12 (日数4日)
			ミュージアムコンサート	9/25				
10			第3回美術講演会	10/2				彫刻講座 10/19~11/2 (日数12日) ⓧ洋画入門講座 4 10/23~11/7 (日数6日)
11	企画展「第17回千葉県移動美術館」 (睦沢町)	11/17~30	第4回美術講演会	11/27				陶芸講座 2 11/9~12/16 (日数9日) 洋画講座 2 11/11~25 (日数10日) ⓧ日本画入門講座 11/23~28 (日数6日) 書芸講座 11/30~12/2 (日数3日)
	企画展「秋山逸生展」	11/20~12/24						
12	企画展「第17回千葉県移動美術館」 (山田町)	12/3~16						ⓧ洋画入門講座 5 12/7~12 (日数6日)
	常設収蔵作品展 (第Ⅲ期)	12/4~3/27						
1								金工講座 1/25~2/9 (日数12日) ⓧ洋画入門講座 6 1/18~23 (日数6日)
2	企画展「第6回現代日本具象彫刻展」	2/5~27	第5回美術講演会	2/19				ⓧデッサン入門講座 2 2/17~20 (日数4日)

※ ⓧは友の会主催講座
美術団体展は、P44に掲載

展 示 事 業

常設収蔵作品展を3期に分けて開催した。全期を通して、常時のテーマに「房総と近代美術」を設けた。また、これに加えて随時のテーマとして、材質・技法、モチーフ及び新収蔵作品の区分を設けて、本館収蔵の優品及び研究資料を公開した。

特別展としては、「デ・キリコ展」「バルビゾン派と日本」を開催した。

企画展としては、「房総の美術家シリーズ-23-秋山逸生展」「第6回現代日本具象彫刻展」を開催したほか、「第17回千葉県移動美術館」を睦沢ゆうあい館と山田町公民館において開催した。

常設展

常設 収蔵作品展（第Ⅰ期）

常設収蔵作品展第Ⅰ期は、2つの区分に分けて展示した。「新収蔵作品」では、平成4年度あらたに収蔵した作品を前期のみ展示した。「房総と近代美術」では房総の近・現代美術の発展に尽力した洋画家たちの作品を前期に、房総の代表的な物語書家に焦点をあてた作品を後期に紹介した。

会 期	(前期) 平成5年4月1日(木)～5月30日(日)	53日間
	(後期) 平成5年6月5日(土)～7月11日(日)	32日間
展示点数	(前期) 149点	
	(後期) 21点	
入場者数	43,969人	

出品目録

「新収蔵作品」(前期)

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
<日本画>				<工芸>			
1	浅井 忠	農 耕 の 図	1902～07	1	浅井 忠	草 花 盆	1902～07
2	田村宗立	白 衣 観 音	1900	2	浅井忠 <small>図案</small>	インカ文湯呑	"
3	三谷十糸子	魚 紋	1988	3	浅井忠 <small>図案</small> 河村靖山 <small>山作</small>	桔梗文花瓶	1908
				4	川上祥二郎	黄釉彫文花器	1961
				5	河村靖山	長方皿 雨・風・晴	
				6	高村豊周	青銅花入	
				7	信田 洋	夕映の甲斐の山々	1987
				8	宮之原謙	彩地盛連葉文壺	1955頃
				9	山室百世	鑄銅草花置物	1933
				10	"	黄銅線條文花瓶	1936
				11	"	鑄銅東亜の光置物	1939
				12	"	鑄銅萌ゆる力置物	1940
				13	"	鑄銅進駐置物	1941
				14	"	鑄銀小鳥のささやき	1943
				15	"	鑄銅朝陽(パネル)	1951
				16	"	鑄銅月明に善を聞く	1952
				17	"	鑄銅想念置物	1953
				18	"	鑄銅芽花瓶	1955
				19	"	鑄銅第三の指向花器	1958
				20	"	鑄銅遍路置物	1961
				21	"	鑄銀粧える鳥置物	1964
				22	"	朧銀月明置物	"
				23	"	青銅花挿	
				24	"	鑄銅花瓶	
				25	横山朝陽	草花文搔落花瓶	
				26	"	草花紋搔落皿	
<洋画>							
1	チャールズ・ワニグマン	七里ヶ浜風景					
2	麻生蓉子	出を待つ	1978				
3	石井柏亭	冬の朝(行徳)	1909				
4	伊藤順一	里	1992				
5	王 軍	蘇州水郷	"				
6	岸田劉生	霽れたる冬之日	1917				
7	近藤南海子	グレーの冬	1992				
8	鱸 利彦	黄 衣					
9	椿 貞雄	夏の風景	1928				
10	"	犬 吠 埼	1948				
11	時田幸彦	舞 妓 図	1987				
12	"	犬 吠	1991				
13	畠中陽一	アルミの誘惑	1992				
14	藤井外喜雄	自 画 像	1919				
15	"	シャルトル	1975				
<彫刻>							
1	工藤 健	愁いのマンドーラ	1991				
2	零駒無蔵	集う人々の列に……	"				
3	綿引道郎	詩人-生を見つめて	"				

No.	作家名	作 品 名	制作年
27	横山朝陽	草花紋線文鉢	
28	"	牡丹紋搔落壺	
29	"	花鳥紋四方水指	
30	"	伊羅保茶盤	
31	"	唐津皮鯨平茶盤	
32	"	御本手茶盤	
33	"	白釉割高台茶盤	

No.	作家名	作 品 名	制作年
40	深沢幸雄	落ちてくる天使	1958
41	"	舞踏	"
42	"	未見の虚空より	1959
43	"	繫縛	"
44	"	昇華	1960
45	"	残像	1961
46	"	大虚	"
47	"	屈辱史 B	"
48	"	刻印	1964
49	"	古い楽譜（記号）	1965
50	"	土と火の祝祭	1966
51	"	青い扉	"
52	"	失われた像	1967
53	"	扉の向こうとこちらの人	"
54	"	指の間の記憶 B	1970
55	"	黎明のヴィーナス	1971
56	"	窓	1972
57	"	星の門	"
58	"	湾頭に開く花	1978
59	"	りんごの中の夜 A	"
60	"	凍れる歩廊 (ペーリング海峡)	"
61	"	アシェンダの地下にて	1980
62	"	異次元よりの使者	1981
63	"	鏡の前の人(2)	1982
64	"	酒場にて	1983
65	"	陸橋の上を歩く人	1984
66	"	照れている人	"
67	"	寂しい訪問者	1988
68	"	顔は迷路	"
69	"	樹精	1990
70	"	長い飛行機の旅	1991
71	"	誇り高き男	1992

「房総と近代美術」(前期)

<洋画>

<版画>

1	浜口陽三	3つのポプラ	1980
2	"	緑の毛糸	1981
3	"	西瓜	"
4	"	赤い蝶	"
5	"	ロビーナのさくらんぼ	"
6	"	" (7枚組)	"
7	"	" (15枚組)	"
8	"	びんとレモンと赤い壁	1981~89
9	"	暗い背景のびんと 黄色いレモン	"
10	"	緑のさくらんぼ	"
11	"	くるみ	1982
12	"	青い蝶	"
13	"	" (7枚組)	"
14	"	" (15枚組)	"
15	"	琥珀色のくるみ	1982~89
16	"	青いくるみ	"
17	"	青紫色の蝶	"
18	"	びんとレモン	1983
19	"	てんとう虫	1984
20	"	" (7枚組)	"
21	"	" (15枚組)	"
22	"	野	1985
23	"	編み棒	"
24	"	3匹の蝶	"
25	"	" (7枚組)	"
26	"	" (15枚組)	"
27	"	緑のポプラ	1985~89
28	"	黄色い編み棒	"
29	"	カリフォルニア・チェリー	1987
30	"	" (7枚組)	"
31	"	" (15枚組)	"
32	"	22のさくらんぼ	1988
33	"	マントリック・ミュージック I (22のさくらんぼ7枚組)	"
34	"	" II (22のさくらんぼ15枚組)	"
35	"	骨疾 B	1955
36	"	ひも	1956
37	"	ある個性 C	"
38	"	ダンテ「神曲」(地獄編) プルネット・ラディーニ	"
39	"	チェルベロ	1957

1	浅井真	梅林	1948
2	"	四月の海	1959
3	安藤信哉	パリの窓	1962
4	"	花束	1970
5	石橋武治	筑波遠望	1953
6	"	水辺	1966
7	円城寺昇	岩	
8	大野隆徳	公園	1912
9	国松伽耶	港	
10	笹岡了一	秋麗芦の湖	1969頃
11	"	山西	1984
12	菅谷元三郎	農婦二人	1931

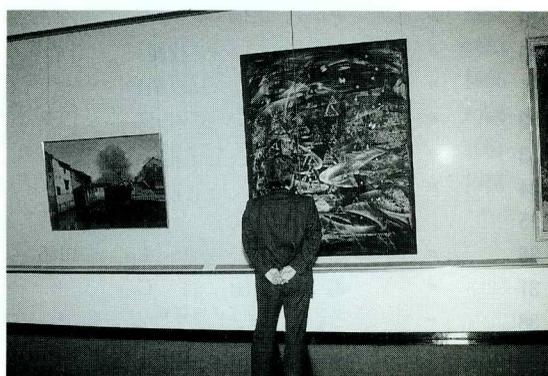
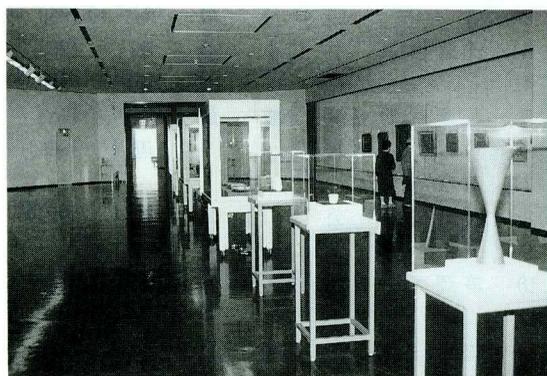
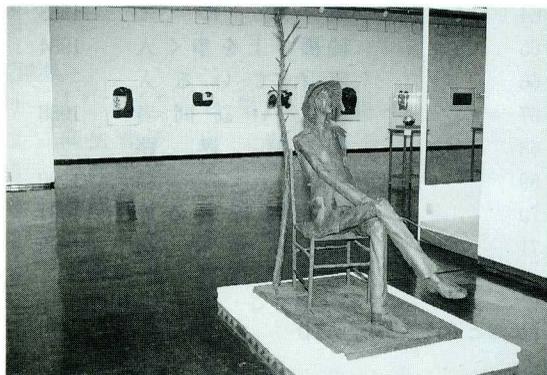
No.	作家名	作品名	制作年
13	菅谷元三郎	沼 風 景	1935
14	椿 貞雄	アンドレ裸体	1932
15	"	黒壺に椿一輪	1948
16	"	水彩画家(渡辺義一君像)	1953
17	内藤 隼	緑衣の婦人像	1961
18	峯岸義一	光の中の馬	
19	宮嶋美明	慾 望	1975
20	無縁寺心澄	銚子大新楼上にて	
21	"	医大尖煙突	
22	森 桂一	ランス大聖堂	1959
23	山本不二夫	ハイデルベルグ風景	
24	和田 清	秋きたる梓川	1949

「房総と近代美術」(後期)

<書>

1	浅見喜舟	晋陶弘景語	1955
2	"	無事	1973
3	"	檯 権	1976頃

No.	作家名	作品名	制作年
4	浅見喜舟	ト 居	1980
5	"	太公有意垂釣	1983
6	"	木戸公之詩	
7	石井雙石	林鳥相忘不避人	1951
8	"	種	
9	"	鶴	
10	江川碧潭	白雲青山詩	
11	"	龍溪山	
12	小安花邨	パイロンの言葉	1966
13	鈴木方鶴	登樓萬里春	1981
14	"	一笑千山青	1984
15	"	華下一壺酒	"
16	高澤南総	桃李争妍	1970
17	"	藝に遊ぶ	1979
18	"	墨 縁	"
19	"	龍 虎	1988
20	高宮金陵	山部赤人歌詩	
21	中台邱園	廬 綸 詩	1986



常設 収蔵作品展（第Ⅱ期）

常設収蔵作品展第Ⅱ期は、2つの区分に分けて展示した。「海・湖・川のある風景」では、私達に身近な「海・湖・川」を主要なモチーフとして描いた作品に焦点をあて、日本画、洋画の各ジャンルの作家により描かれた様々な海・湖・川のある風景の表現を前期のみ展示した。「房総と近代美術」では、木を素材とした彫刻に焦点をあてた作品を前期に、浅井忠のヨーロッパ時代に焦点をあてた作品を後期に紹介した。

会 期	（前期）平成5年7月17日（土）～8月29日（日）	38日間
	（後期）平成5年9月4日（土）～10月11日（日）	33日間
展示点数	（前期）77点	
	（後期）48点	
入場者数	49,441人	

出 品 目 録

「海・湖・川のある風景」（前期）

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
<日本画>				○16	大下藤次郎	久々子湖	1911
1	石井林響	漁 樵	1913頃	17	大崎善生	十二橋	1950頃
2	〃	蓬萊仙境之図	1927	18	鹿子木孟郎	風景	
3	〃	秋景山水	1928	○19	小堀進	真夏の海（太海）	1931
4	大田歳	北海	1979	●20	〃	風の日の海辺	1935
5	小野具定	遠くなつた海	1974	21	〃	海（白浜）	1954
6	古城江観	ヴェニス所見		22	〃	レマン湖畔	1962
7	関主税	晨	1984	○23	〃	霞ヶ浦	1973
8	時田直善	夕 凧	1954	●24	〃	花と海	1974
9	富取風堂	朝 光	1931	25	小山周次	銚子犬吠埼	1961
10	〃	葛西風景	1937	26	斎藤捷夫	海辺の光景	1983
11	〃	漁村の初夏	1942	27	櫻田精一	白い舟	1985
12	横尾芳月	熱海風景	1963	28	澤部清五郎	ハドソン河の朝靄	1912
13	渡辺学	川 口	1976	29	三田康	廃 墟	1965
<洋画>				30	〃	冬の犬吠岬	
1	チャールズ・ワニグマン	七里ヶ浜風景		31	柴田祐作	水郷静日	1981
2	相田直彦	清 浪		32	〃	白い蔵	1988
3	赤城泰舒	赤屋根の村	1913	33	白滝幾之助	伊国ナポリ	1923
4	〃	山 湖		34	〃	テーマス河	1953
5	浅井真	太海海岸	1960	35	菅谷元三郎	沼 風 景	1935
6	〃	岩 B	1962	36	高橋規矩治郎	漁 船	1965
7	荒谷直之介	大島風景	1920	37	椿 貞雄	鋸山から見た房総半島	1948
8	〃	白船入港（マラガ）	1962	38	〃	犬 吠 埼	〃
9	安藤信哉	み な と		39	鶴田吾郎	アマムンチエスク	1919
10	石井柏亭	安 倍 川		40	〃	水 温 む	1968
●11	石川欽一郎	水 辺		41	都鳥英喜	巴里郊外サンクール	1920
12	今井謙二	姉 ケ 崎		○42	富田通雄	外 房 鶴 原	1964頃
13	円城寺昇	崖	1931	●43	中西利雄	トリエル・セルヌ	1930
14	王 軍	蘇州水郷	1992	○44	〃	外 房 風 景	1936
15	大久保作次郎	海水浴帰り	1917	45	中野庸二	a r i p p l e	1990
				46	鳩川誠一	ヴェニス風景	1969

No.	作家名	作品名	制作年
47	西川 純	保 津 峡	
48	林 倭衛	太 海	
●49	不破 章	ハ ン ブ ル グ	1963
50	間部時雄	川 沿 い の 家	
51	丸山晚霞	長 野 水 内 風 景	1898
52	和田 清	秋 き た る 梓 川	1949

「房総と近代美術」(前期)

<彫刻>

1	安西順一	秋	晴	1948
2	池田丈一	ひねくれた正四面体		1981
3	〃	ひねくれた正12面体		1987
4	伊藤礼太郎	夜 叉 神 解 脱		1982
5	鈴木 実	存 在 す る 私		1976
6	南部治夫	時の流れに……(相)		1989
7	長谷川昂	安	息	1966
8	〃		朝	1979
9	堀川 恭	丸 い フ ォ ル ム		1975
10	〃	聖 な る 佇 立		1981
11	本田晶彦	腰 か け の 女		1966
12	米林雄一	Circle and Triangle		1983

「房総と近代美術」(後期)

<洋画>

1	クールベ	眠 る 人	1853
2	コロー	フォンテンブローの石切場	1835~40頃
3	〃	ナポリ近郊の思い出	1860~65
4	ジャック	森 の 中	1871
5	ディアズ	森 の 中 の 農 婦	1868
6	デュプレ	嵐 の 前	
7	フネタジ	十月、牧場の夕べ	1860
8	〃	風 景 1	
9	〃	〃 2	
10	浅井 忠	フォンテンブローの森	1901
11	〃	農 婦	1902

No.	作家名	作品名	制作年
12	浅井 忠	西 洋 婦 人	1900~02
13	〃	〃	〃
14	〃	パ リ 公 園	〃
15	〃	欧 州 市 場 風 俗	1903頃
16	〃	欧 州 風 景	1902~03
17	〃	花	1902~07
18	和田英作	塚 本 靖 肖 像	1901

<工芸>

1	浅井 忠	絵 皿 (鳳 凰)	1901
---	------	-----------	------

<研究資料>

1	浅井 忠	絵 葉 書 (馬 方)	1900
2	〃	寒 月 ・ 水 仙	1901
3	〃	絵 葉 書 (菊 花 図)	〃
4	〃	〃 (グレーの秋)	〃
5	〃	〃 (風 景)	〃
6	〃	〃 (少 女 像)	1902
7	〃	〃 (花 木 に ロバ 図)	〃
8	〃	〃 (松 に 花)	〃
9	〃	欧州日記・附巴里日記	1900~02
10	〃	欧州日記別冊	〃
11	〃	渡欧時代使用手帳	〃
12	〃	図 案 画 稿 (花 瓶 図)	1902~07
13	〃	〃 (ダチョウ図)	〃
14	〃	〃 (花 木)	〃
15	〃	〃 (花 瓶 図)	〃
16	〃	図 案 帳 2	〃
17	〃	〃 3	〃
18	〃	絵 葉 書 (渡 船)	
19	〃	〃 (雪 の 林)	
20	〃	スケッチブック	
21	塚本 靖	フォンテンブローの釣人	1901
22	〃	フォンテンブローの宮殿	〃
23	〃	グレーの古城址	〃

○ 7月17日(土)~8月8日(日)のみ展示
● 8月10日(火)~8月29日(日)のみ展示



常設 収蔵作品展（第Ⅲ期）

常設収蔵作品展第Ⅲ期は、2つの区分に分けて展示した。「房総と近代美術」では、近代金工の発展に尽力した作家の作品を全期間に、浅井忠の京都時代に焦点をあてた作品を後期のみに展示した。「女性の表現」では、美しく豊かな表情をもつ女性をモチーフとして描いた作品に焦点をあて、日本画、洋画の各ジャンルの作家により描かれた、様々な女性の表現を中期・後期をとおして紹介した。

会 期	(前期)	平成5年12月4日(土)～平成6年1月30日(日)	44日間
	(中期)	平成6年2月5日(土)～2月27日(日)	20日間
	(後期)	平成6年3月5日(土)～3月27日(日)	21日間
展示点数	(前期)	24点	
	(中期)	71点	
	(後期)	165点	
入場者数	59,204人		

出 品 目 録

「房総と近代美術」(前期・中期・後期)

No	作家名	作 品 名	制作年	No	作家名	作 品 名	制作年
<工芸>							
●1	会田富康	蓋のある青銅壺	1965	●27	津田信夫	鳳 翔 薰 炉	1937
○2	〃	青銅双鳥置物	不詳	28	〃	北 辺 夜 猫 子	1941
3	飯田美郎	緑 陰	1973	●29	信田 洋	銀 壺 (花ひらく)	1969
4	大須賀選	作品63-7(室内灯ろう)	1963	○30	〃	乳 装 銀 瓶	1977
○5	大須賀喬	蝶文黒銅香炉	1983	31	〃	金 彩 壺	1979
●6	〃	昆 蟲 文 飾 皿	1986	32	蓮田修吾郎	鐘がなるリュウベック	1986
7	鹿島一谷	布目象嵌菱つなぎ文南鍍水指	1981	○33	堀口光彦	日 曜 日 の 雨	1977
○8	香取秀真	千本松文釜及び鳳凰文風炉	1934以前	●34	〃	安 眠 装 置	1986
9	〃	鳩 香 炉	1949	35	山室百世	鑄 銅 草 花 置 物	1933
●10	〃	靈 獣 文 大 花 瓶		○36	〃	黄銅線條文花瓶	1936
○11	〃	鳳 凰 文 様 花 瓶		●37	〃	鑄 銅 芽 花 瓶	1955
●12	〃	笑 獅 子 香 炉		○前期のみ展示 ●後期のみ展示			
○13	〃	菊 文 釜		「女性の表現」(中期・後期)			
14	香取正彦	朧銀玉錯花瓶	1973	<日本画>			
15	小林正利	祈 り (啓蟄)	1975	1	浅井 忠	箆を背負う女	
○16	鈴木治平	条紋金彩花瓶	1977	2	五十嵐幹	華	1976
●17	〃	湿 原 の 詩	1985	3	石井鼎湖	立 姿 婦 人 図	
●18	関谷四郎	銅 鉄 壺	1974	4	稲木皓人	更 衣	1973
19	高村豊周	青銅花入		5	村松乙彦	化 粧	1947
●20	帖佐美行	香 <small>実の集</small> と <small>酒器</small> 想 <small>鳥</small> (セット)	1984	6	横尾芳月	夕 粧	1981
○21	津田永寿	幾 星 霜	1970	7	〃	新 春	
●22	〃	烏 の 花 器	1979	8	若木 山	常 陸 乙 女	1948
○23	津田信夫	煙 草 入	1926頃	<洋画>			
●24	〃	雷 吼 一 聲	1935	1	ルノワール	少 女 像	1916~18
○25	〃	鴨	1936				
○26	〃	鑄 銅 水 盤	1937				

No.	作家名	作品名	制作年
2	浅井 真	A 嬢 像	1931
3	足立源一郎	裸 婦	1912~25
4	荒谷直之介	大 原 女	1969
5	"	若 い 裸 婦 たち	1976
6	安藤信哉	裸 婦	1938
7	石井柏亭	舟 に 居 る 人	1913
8	"	舞 姫	1953
9	石橋武治	裸 婦	1967
10	"	窓 辺 の 少 女	
11	板倉 鼎	裸 婦	1929
12	鹿子木孟郎	裸 女 と 野 花	
13	黒田重太郎	女 と 小 犬	1928
14	櫻井慶治	フ ラ ン ス の 女 性	1987
15	澤部清五郎	婦 人 像	1913
16	霜鳥之彦	緑 の ス ウ ェ ー タ ー	1923
17	田中志奈子	デ ッ サ ン (箒をもつ女)	1905
18	田中善之助	パ リ の 女	1921
19	椿 貞雄	八 重 子 像	1918
20	"	ア ン ド レ 裸 体	1932
21	鶴田吾郎	婦 人 像	1935
22	"	蒙 古 の 女	1937
23	都鳥英喜	婦 人 像	1919頃
24	内藤 隼	緑 衣 の 婦 人 像	1961
25	中西利雄	人 物	1936
26	"	四 人 の 女	1939
27	鳩川誠一	裸 女 と 顔	1960
28	原 勝郎	デ ッ サ ン (K)	
29	"	" (M)	
30	不破 章	裁 縫 女	1943
31	"	二 女	1953
32	"	三 人 姉 妹	1956
33	"	浴 衣	1960
34	松澤茂雄	海 辺 の 裸 婦	1981
35	三橋兄弟治	染 色 を す る 女	1954
36	宮嶋美明	少 女	1981
37	安井曾太郎	デ ッ サ ン (裸婦)	1907
38	"	" (")	"
39	柳 敬助	婦 人 像	

「房総と近代美術」(後期)

<日本画>

1	浅井 忠	鍾 馗 図	1903
2	"	韓 信 図	1907
3	"	羊 の 図	"
4	"	当世風俗五十番歌合(2番)	"
5	"	" (7番)	"
6	"	" (15番)	"
7	"	" (28番)	"

No.	作家名	作品名	制作年
8	浅井 忠	虎 図	1902~07
9	"	"	"
10	"	蓮 と 蘭 の 図	"
11	"	亀 の 図	"
12	"	餓 鬼 図	"
13	"	種 ま き の 図	"
14	"	貼 交 屏 風	"
15	"	人 物 風 俗 図	"
16	"	盗 賊	"
17	"	百 鬼 夜 行	"
18	"	農 耕 の 図	"
19	"	も ろ こ し の 図	"
20	"	夕 顔 の 図	"
21	"	も ろ こ し と 鳳 仙 花	1904~07
22	"	風 俗 図 (人足図)	1906~07
23	"	" (参詣)	"
24	"	参 詣	"
25	"	"	"
26	"	草 を 摘 む 女 たち	
27	"	カルタとりの女兒	

<洋画>

1	浅井 忠	京都高等工芸学校の庭	1903
2	"	奈 良 郊 外	"
3	"	東宮御所壁飾草稿(1)	1905
4	"	" (2)	"
5	"	老 母 像	1906
6	"	婦 人 像	1907
7	"	大 原 女	1902~07
8	"	花	"
9	"	オ ッ ト セ イ の 図	"
10	梅原龍三郎	竹 窓 読 書 図	1937
11	加藤源之助	秋 の 山 (大和初瀬村)	1908
12	黒田重太郎	浴 後	1927
13	澤部清五郎	パ リ 風 景	1913
14	霜鳥之彦	ロ シ ア の 女	1923
15	田中善之助	山 門	
16	間部時雄	寒 林	
17	安井曾太郎	熱 海 附 近	1929

<工芸>

1	浅井 忠	茶器「猿蟹合戦ノ図」	1902~07
2	"	茶 器	"
3	"	農家風俗画手塩皿	"
4	"	花 瓶	"
5	"	向付皿, 揚子挿	"
6	"	茶 托	"
7	"	図 案 皿	"

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
8	浅井 忠	天燈鬼型スタンド	1902~07	16	浅井 忠	図案画稿(人物2人)	1902~07
9	"	桔梗文花瓶	"	17	"	" (鉢の図)	"
10	"	インカ文湯呑	"	18	"	" (モロコシの図)	"
<研究資料>				19	"	" (風俗図)	"
1	浅井 忠	図案草稿 (画吉祥天)	1903	20	"	" (女神図)	"
2	"	「当世風俗五十番歌合」 (雲 水 他)	1907	21	"	" (花瓶図)	"
3	"	(ハンター他)	"	22	"	" (魚の図)	"
4	"	"	"	23	"	" (ダチョウ図)	"
5	"	下 絵 「当世風俗五十番歌合せ40番」	"	24	"	" (花 木)	"
6	"	下絵「ラッパを吹く物売り」	"	25	"	" (木かげの女)	"
7	"	山 賊 (4人)	1902~07	26	"	" (せんたくの女)	"
8	"	" (3人)	"	27	"	" (花瓶図)	"
9	"	牛 と 天 神 (A)	"	28	"	" (大津絵皿)	"
10	"	下絵「牛と天神」1~2	"	29	"	"	"
11	"	図案草稿(二人傘)	"	30	"	"	"
12	"	" (柿の実取り)	"	31	"	"	"
13	"	" (本装丁)	"	32	"	"	"
14	"	図案画稿(溪流)	"	33	"	"	"
15	"	" (春日野花瓶)	"	34	"	" (花瓶図)	"
				35	"	" (花瓶2種)	"



特別展

デ・キリコ展

会 期 平成5年6月5日(土)～7月11日(日) 32日間
 展示点数 101点
 入場者数 10,737人

今世紀イタリアを代表する画家ジョルジョ・デ・キリコは、ギリシャに生まれ、アテネの美術学校で学んだ後、ミュンヘンに移り絵の勉強を続け、1910年頃より、彫像と煙突など、関連のない事物を組み合わせる手法により、神秘的な雰囲気が漂う作品を描き、後の芸術家たちに多大な影響を与えた。

その後古典絵画の研究に取り組むようになったが、かつてキリコを絶賛した芸術家たちは、以前の作品しか評価せず、それは大きな影響力を持ち、彼の芸術を理解する上で一つの基準となっている。しかしこの古典回帰は、今日の芸術を考える上で、無視できない問題を提起している。

本展では、キリコが古典絵画の美に魅せられ、その研究を通して多様な展開をみせる1920年代以降の活動に焦点をあて、キリコが新たに創造した世界の再評価を試みた。



出品目録

No.	作 品 名	制作年	No.	作 品 名	制作年
<油彩>					
1	婦 人 像	1921	24	リンゴ、レモン、ミカンのある静物	1931頃
2	ヘクトルとアンドロマケ	1924	25	清 教 徒 た ち	1933頃
3	画 家	1925	26	デ ィ オ ス ク ロ イ	1934頃
4	フリジアの商人	"	27	ヘクトルとアンドロマケ	1935
5	形而上的室内	1926	28	婦 還 の 謎	1938頃
6	海辺の雌雄の獅子	1926頃	29	田舎の静かな生命(生物)	1940
7	谷間の家具	1927	30	葡萄の静かな生命(生物)	1940頃
8	古代の廃墟と馬	"	31	海辺の三頭の馬	"
9	海辺の二頭の馬	1927頃	32	羽根つきの帽子を被ったイサベラ	"
10	未 完 成	"	33	ヴィラ・メディチの庭から見た日没	"
11	東方の馬	"	34	ヴェネツィアの夜景	"
12	剣闘士たち	1928	35	城塞に向う馬	1941
13	剣闘士	1928頃	36	ヘクトルとアンドロマケ	1942
14	"	"	37	田園風景と静物	1943
15	海辺の古代の馬	1929	38	吟 遊 詩 人	1946頃
16	考古学者たち	"	39	甲冑をつけた自画像	1948
17	ユピテルの頭のある勝利記念碑	1929頃	40	イ タ リ ア 広 場	"
18	古代の胸像のある静物	"	41	馬	1948頃
19	パイナップルのある静物	"	42	水 浴	1949
20	海辺アルゴナウテス	1930	43	ヴェネツィア、ドゥカーレ宮殿	1950
21	二つの仮面	1930頃	44	イ タ リ ア 広 場	"
22	夏の日	"	45	黄色い服の水浴客	"
23	海辺の古代の馬	"	46	美しいイタリア人	"
			47	イ タ リ ア 広 場	"

No.	作 品 名	制作年
48	白馬とカストル	1950頃
49	イタリア広場	"
50	"	"
51	形而上的トリノ	1951
52	甲冑の静物	1951頃
53	リアルト橋	1952
54	岩のある風景と静物	1954頃
55	吟遊詩人	"
56	イタリア広場	1955

[テンペラ]

57	自 画 像	1920
58	サン・ジョルジョ	"
59	マーキュリーと形而上学者	"
60	少女の頭部	1921
61	ニ オ ベ	"
62	自 画 像	1924
63	アルフレド・カセッラの肖像	"
64	舞台の下書き	"
65	海辺の家具	1927頃
66	海辺の巫女たち	1930頃

[水彩]

67	海 辺 の 馬	1930頃
68	『ヴォーグ』の表紙プラン	1935
69	アクロポリスのベンチ	1938
70	シャンゼリゼ通りの門	"
71	下描き n. 3 - III 図	"
72	馬に水を飲ます男	"

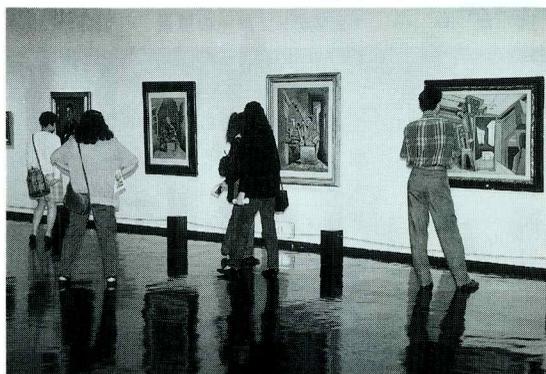
No.	作 品 名	制作年
[鉛筆]		
73	アクロポリスの二人の女	1938
[混合技法]		
74	マーキュリーのいるローマの別荘	1921頃
75	戦勝者の神殿	1936頃
76	『アンフィオン』のための下書きⅢ図	1942

[彫刻]

77	画 家	1968
78	剣 闘 士	"
79	不安がらせる女神たち	"
80	吟 遊 詩 人	"
81	古代の馬（馬のグループ）	1969
82	考古学者たち	"
83	馬とフリジア絹をつけた騎士 (デフィオスクロイ)	"
84	不安がらせる女神（女神たち）	1970
85	植民地のマネキンたち	"
86	大 考 古 学 者	"
87	巫 女	"
88	オルフェウス	"
89	マントを着た吟遊詩人	"
90	大きな馬（古代の馬）	1971
91	考古学者（考える人）	1972
92	考古学者たち（オレステスとピラデス）	"
93	ヘクトルとアンドロマケ	"

<版画>

※8点を参考出品。



— ミレーと浅井忠の出会い —

バルビゾン派と日本

会 期 平成5年9月4日(土)～10月11日(月) 32日間

展示点数 104点

入場者数 14,180人

19世紀の半ばに、パリ近郊のフォンテーヌブローの森の一隅にある小村バルビゾンに集まり、自然や農村風景を描いた画家の一群をバルビゾン派という。バルビゾン派の芸術は、明治9年に工部美術学校の教師として来日したフォンタネージが画学生に教授したのをはじめ、美術雑誌や画集等を通じて様々な形で将来されてきた。また、多くの日本の画家たちがバルビゾン村近郊のグレー村に滞在し、バルビゾン派のように風景画の制作に励んだ。

本展では、日本に将来されたバルビゾン派の作品とともに、フォンタネージの教え子である高橋由一、浅井忠らの作品や、グレー村で作画した黒田清輝、久米桂一郎らの作品、またバルビゾン派の作品を模写した和田英作、原田直次郎らの作品など約100点を展観し、バルビゾン派が日本の近代洋画に与えた様々な影響を紹介した。

なお本展は、山梨県立美術館、福島県立美術館との共同企画により実施した。



出品目録

No.	作 品 名	制作年	No.	作 品 名	制作年
1	ミレー 種をまく人	1850	25	クールベ 雪の中の小鹿	1869頃
2	“ 肥料をまく農夫	1851	26	“ エルト・タヴァル 断崖	1869
3	“ バルビゾンのミレーの家	1853	27	“ 竜巻(海岸の竜巻)	1870
4	“ 乳しぼりの女	1854～60	28	“ 雪景色	1872～73
5	“ 羊飼 い	1850代	29	ルソー 森の中の猟犬	1839
6	“ ミルク缶に水を注ぐ女	1859	30	“ 錦 秋	1850頃
7	“ 垣根に沿って草を食む羊	1860～61	31	“ バルビゾンの農場	1850～55
8	“ 冬(凍えたキューピッド)	1864～65	32	“ 風 景	
9	“ 鴛 鳥 を 追 う 少 女	1865頃	33	“ シャイ平原のたそがれ	
10	“ キュセ近くの栗の木のある小径	“	34	デュブレ 森の中—夏の朝	1840頃
11	“ 大嵐に船を引く漁夫たち	1870頃	35	“ 並 木 道	1856
12	“ 裁 縫 す る 女		36	“ 森 の は ず れ	1860代
13	“ 裁縫をする女たち		37	“ 小 さ な 荷 馬 車	
14	コロー フォンテーヌブローの風景	1830～35	38	“ 山 村 風 景	
15	“ オンフルールのトゥータン農場	1845頃	39	“ たそがれの水飼い場	
16	“ ヴィル・ダヴレーのあずまや	1847頃	40	ディアズ フォンテーヌブローの榎の木	1862
17	“ 小さな水門のある草原	1855～60	41	“ 森の中の静かな池	1865頃
18	“ 樹木の後ろの修道院	“	42	“ 水浴する女達	1867
19	“ 大 農 園	1860～65	43	“ キューピッドとヴィーナス	
20	“ ボロメ島の浴女たち	1872頃	44	“ ベル・エピンの岩	1840～45
21	クールベ 眠る草刈り女	1857頃	45	ドービニー ヴァルモンドワの小川	1844
22	“ 畏にかかった狐	1860	46	“ オワーズ河の夏の朝	1869
23	“ 木の下の子鹿	1865頃	47	“ 朝	1874
24	“ ピュイ・ノワールの溪流	1865	48	トロワイオン 市 日	1859

No.	作	品	名	制作年
49	トロワイヨン	水浴する牛(帰途)		1855~60
50	〃	河	辺の道	1860~65
51	ジャック	森はずれの羊飼いの女		
52	〃	納屋の中の羊の群れ		
53	〃	羊小屋の内部		1874
54	〃	羊飼いと羊の群れ		
55	〃	豚を追う男		1890
56	ラヴィエ	モレステル風景		
57	〃	モレステル風景(沼)		
58	フォンタネージ	牛を追う農婦		1862頃
59	〃	水汲み場風景		1863頃
60	〃	川辺の二頭の牛		1865頃
61	〃	森の空地の農婦		〃
62	〃	羊飼いの少女		1863~74
63	〃	木	立	1870頃
64	〃	池と樹木		1870~72
65	〃	不	忍池	1876~78
66	〃	風	景	〃
67	高橋由一	愛	宕望嶽	1877頃
68	〃	浅	草遠望	1878頃
69	〃	松	島 凶	1881頃
70	〃	栗子山隧道凶(西洞門凶・小)		1881
71	〃	農	夫〔ミレー〕	
72	〃	草を焼く女〔ミレー〕		
73	小山正太郎	風	景	1876~78
74	浅井忠	秋	郊	1887頃
75	〃	藁	屋 根	〃
76	〃	農	夫とカラス	1870頃
77	〃	収	穫	1873頃
78	〃	昼	寝〔ミレー〕	
79	〃	豚	飼い〔ジャック〕	
80	〃	フォンテンブローの夕景		1901
81	〃	グ	レー 風景	〃
82	〃	グ	レーの秋	〃
83	松岡寿	森	と小川	1895
84	守住勇魚	風景(家のある風景)		
85	高橋源吉		門	1887
86	印藤真楯	森	の 狐	1897

No.	作	品	名	制作年			
87	中丸精十郎	夕	陽				
88	〃	風	景				
89	原田直次郎	落穂拾い〔ミレー〕					
90	黒田清輝	ミレーの小便小僧		1888頃			
91	〃	グ	レーの水車場	1890			
92	〃	白き着物を着せる西洋婦人		1892			
93	鹿子木孟郎	G. クールベ『海』 (AN. 4724)		1901~03			
94	和田英作	落穂拾い〔ミレー〕		1903			
95	〃	夕	暮(グ	レー)	1902		
96	児島虎次郎	羊	飼	い〔ミレー〕	1902~04		
97	〃	風	景		1908		
98	〃	岸	の	森	〃		
99	山下新太郎	母親の心づかい〔ミレー〕			1905		
100	赤松麟作	コロ	ー風景模写(A)		1910		
101	向井潤吉	風景(池畔牧人)〔コロ	ー〕		1929		
102	久米桂一郎	林	檜	拾	い	1892	
103	〃	フ	ラ	ン	ス	風	景
104	〃	風	景				

所蔵機関等

山梨県立美術館 No. 1, 8, 9, 19, 40, 46, 48, 51, 87, 88,
 99 中津万象園・丸亀美術館 No. 2 石橋財団ブリ
 ギヤストン美術館 No. 4, 15 村内美術館 No. 5, 17, 23,
 37, 42, 43 ひろしま美術館 No. 20, 92 西宮市大谷
 記念美術館 No. 21, 38 国立西洋美術館 No. 22, 28
 静岡県立美術館 No. 24 横浜美術館 No. 27 栃木県
 立美術館 No. 49 東京国立博物館 No. 65, 66 金刀
 比羅宮博物館 No. 67, 68 宮城県美術館 No. 69, 73
 中野美術館 No. 74 石川県立美術館 No. 76 徳島県
 立近代美術館 No. 84 東京芸術大学芸術資料館 No. 12,
 71, 94 東京芸術大学附属図書館 No. 72 福富太郎
 コレクション No. 86 鹿児島市立美術館 No. 90 京
 都工芸繊維大学美術工芸資料館 No. 93 大原美術館
 No. 96~98 岡山県立美術館 No. 100 久米美術館 No. 91,
 102~104 フォンテーヌブロー市役所 No. 33, 39, 44,
 54 バルビゾン村立バルビゾン派美術館 No. 53 千
 葉県立美術館 No. 7, 14, 25, 31, 36, 45, 50, 56~64, 75,
 78, 80, 83 (順不同)



企画展

房総の美術家シリーズ -23- 秋山逸生展

会 期 平成5年11月20日(土)～12月24日(金) 30日間
 展示点数 47点
 入場者数 31,891人

明治34年(1901)に生まれた秋山逸生(あきやま いっせい)(1901～1988)は、現山武郡芝山町出身といわれる大野木専蔵が江戸時代中頃に考案した「芝山象嵌」(貝や金属などで形を象り、器物に嵌るといふ象嵌技法のひとつで、貝などを彫り込んで立体感を出し、さらに珊瑚や象牙等も象嵌して装飾する技法)を島田逸山から修得し、また次兄・鐵次郎(秋山聴古)からは古代より伝わる「木画」(紫檀、黒檀等の素材を象嵌する技法)を習い、さらに彫金家の桂光春から彫金技術を学んだ。

逸生はこれらの技法を駆使して制作に励み、昭和17年、第5回文部省美術展覧会(新文展)に初入選し、工芸家としての第一歩を踏み出し、その後、日展・日本伝統工芸展・伝統工芸新作展などに入選を重ね、昭和49年、日本工芸会会員となり、昭和62年には独特の「木象嵌」によって国の重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定を受けた。

本展では象嵌一筋に打ち込んだ秋山逸生の代表的作品43点、および今も芝山町に残る江戸時代制作の芝山象嵌扁額、そして逸生に大きな影響を与えた次兄・鐵次郎の作品なども併せて展覧し、郷土が生んだ芝山象嵌の伝統を継承し、のちに高雅で荘厳な作品を生み出した秋山逸生の芸術を回顧し、広く県民に紹介する機会とした。

企画展 房総の美術家シリーズ(23)

秋山逸生展

平成5年11月20日(土)～12月24日(金)
午前10時～午後4時30分 入場無料 月曜休館



美術講演会 11月27日(土) 午後2時～ 美術館講堂 <入場無料>
 「秋山逸生の芸術」 講師 木内武男氏 (文部科学省審議官兼専門委員)

千葉県立美術館
〒270 千葉県中央区中央1-10-1 ☎043-242-8311

出品目録

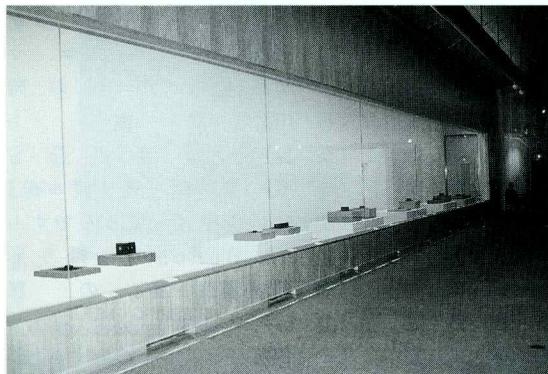
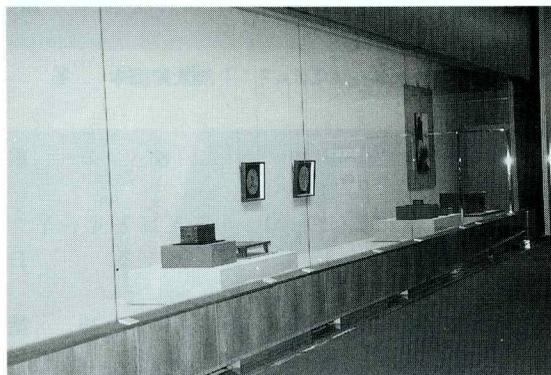
No.	作 品 名	制作年	No.	作 品 名	制作年
鈴木甫造			16	蝶 貝 象 嵌 筥	1966
1	芝 山 象 嵌 扁 額	1805	17	象 嵌 小 筥	1967
秋山聴古			18	木 画 筥	1968
2	白 鳳 之 圖 巻 烟 草 入	1935～36頃	19	十 字 文 香 合	1968～69頃
3	木 象 嵌 盆 河 童 の 家	1940頃	20	木 画 箱	1969
秋山逸生			21	蝶 貝 象 嵌 小 箱	1970
4	菱 花 紋 象 嵌 長 手 筥	1946	22	嵌 装 チ ー ク 箱	1972
5	樺 盆	1947～48頃	23	カ ン ナ 芝 山 象 嵌 襟 飾	1973
6	透 輪 文 象 嵌 箱	1949	24	金 彩 飾 箱	1974
7	花 瓶	1954頃	25	金 彩 嵌 装 飾 箱	1975
8	あ け び 象 嵌 額	1955	26	菊 象 嵌 帶 留	1975頃
9	銀 象 嵌 盆	1957	27	彩 輪 嵌 装 紅 木 箱	1976
10	金 銀 木 画 筥	1961	28	金 彩 紅 木 香 合	1977
11	木 画 卓	1965	29	金 彩 六 稜 文 飾 箱	"
12	花 文 象 嵌 雲 板	1965頃	30	對 縞 黒 檀 筆 筒	1978
13	極 楽 鳥 花 雲 板	"	31	湧 水 文 木 画 文 鎮	"
14	蝶 貝 象 嵌 箱	"	32	金 彩 碧	"
15	蕾 芝 山 象 嵌 額	1966	33	彩 輪 香 合	1980

No.	作	品	名	制作年					
34	輪	華	文	縞	黒	檀	印	箱	1981
35	水	煙	紫	檀	香	合	箱	1982	
36	水	煙	文	薰	香	箱	〃	〃	
37	華	文	嵌	装	黒	檀	小	箱	1983
38	黒	檀	鳥	文	飾	箱	1984	〃	
39	八	華	文	香	合	〃	〃	〃	
40	金	彩	嵌	装	ペン	ダ	ン	ト	1984頃
41	直	弧	文	櫨	小	箱	1985	〃	

No.	作	品	名	制作年					
42	彩	華	文	紫	檀	合	子	1985	
43	蝶	文	ペン	ダ	ン	ト	1985~86頃		
44	紫	檀	緑	彩	文	箱	1986		
45	縞	黒	檀	珠	文	八	角	箱	1987
46	直	弧	文	櫨	香	合	〃	〃	
47	ス	ケ	ッ	チ	ブ	ッ	ク	〃	

<資料>

秋山逸生使用道具一式



— 21世紀への飛躍 —

第6回現代日本具象彫刻展

会 期 平成6年2月5日(土)～2月27日(日) 20日間
展示点数 50点
入場者数 7,886人

現代日本具象彫刻展は、「21世紀への飛躍」をテーマに、具象系の彫刻作家に作品発表の場を提供し、現代の具象彫刻界の発展に寄与することを目的とし、親しみやすい具象彫刻を通して、県民の心にうるおいと豊かさを育む機会として開催するものである。

このたび、第6回展を開催するにあたり、全国より126点の作品が寄せられ、厳正な審査の結果、大賞1点、優秀賞2点、入選47点の計50点が選ばれた。

審査員 小川正隆、○嘉門安雄、弦田平八郎、富山秀男、
中村傳三郎、本間正義、三木多聞

(五十音順) ○は審査会長

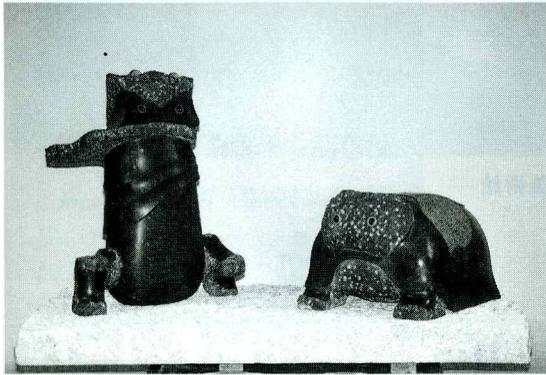


出 品 目 録

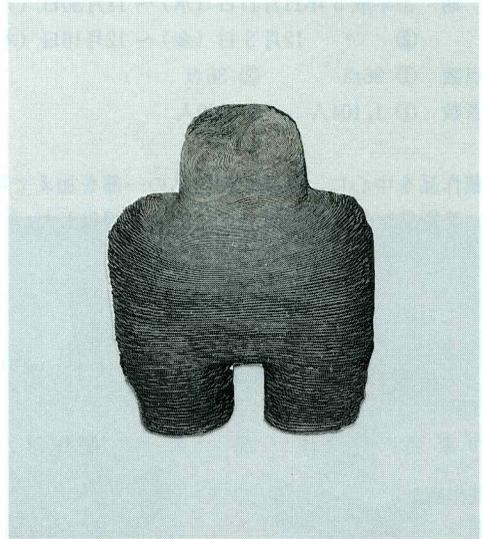
No.	作 家 名	作 品 名	No.	作 家 名	作 品 名
<大賞>					
1	田中 毅(埼玉)	草 枕 の 旅	23	武田省一(東京)	殻と巢と死骸の巨人
<優秀賞>					
2	中岡 慎太郎(岐阜)	" F A N T A S Y "	24	竹村芳樹(神奈川)	2 人 の 哲 学 者
3	笠原 鉄明(茨城)	帰 る 日	25	田中江里(香川)	トンネルを抜れば21世紀
<入選> (五十音順)					
4	市川 治郎(東京)	風 の 神 話	26	田中充樹(香川)	赤 と ん ぼ
5	井上直子(愛知)	直	27	玉野勢三(大阪)	ポニーテールの少女
6	牛山 一(東京)	春 の 詩	28	田村智義(東京)	パチャママ
7	大村 富彦(静岡)	啓 示	29	戸谷真也(山梨)	思いの中の時
8	大森 暁生(愛知)	生きることのつよさ	30	中川 洋(石川)	虚
9	岡本 鍊二(茨城)	転んだヤクシー	31	西野 慎二(奈良)	イノリの丘 S
10	荻野 弘一(新潟)	漁 師 と 魚	32	西村文男(埼玉)	夢の刻(夜ヲ渡ル舟)
11	勝野 眞言(埼玉)	脈	33	葉 栗 剛(愛知)	ジャズってるんです!
12	加藤 加奈衛(千葉)	F i g u r e - 樹	34	波多野 泉(埼玉)	Bench - 舞う形
13	加藤 豊(埼玉)	風 に 舞 う	35	馬場 ゆう子(千葉)	風 浪 の 旅
14	川 寄 豊 史(愛知)	雲 彩	36	濱野 邦昭(山口)	A SLEEPING MUSE (GREEN RENAISSANCE 1994)
15	川崎 文雄(神奈川)	古 代 譜 - 悠 -	37	早川 榮二(千葉)	0 の 夢
16	栗山 勉(兵庫)	大 地 へ の 祈 り	38	林 耕 史(新潟)	「家族」のフォルムII
17	坂井 達省(長野)	親 子 犬	39	原口 潔(愛知)	骸 思 え る 我
18	嶋崎 達哉(神奈川)	はるかなる過去を見つめてVI	40	播間 公次(大阪)	春 待 時
19	霜村 尚道(東京)	山 涯	41	伴 正 史(長野)	人 「静寂の時」
20	鈴木 典生(石川)	や ま び こ	42	一 鍬 田 徹(千葉)	永遠を信じていた頃
21	高木 久代(兵庫)	M o r e E y e s	43	前田 忠一(東京)	オットローカの森
22	高崎 哲(東京)	ワ タ ル の 夏	44	松原 静生(東京)	「風に向かう聖母子」
			45	松村 明育(愛知)	天空のプレートへ
			46	三島 喜一(千葉)	会 話
			47	村上 力(東京)	ピ カ ソ

No. 作家名 作品名
 48 柳川貴司(東京) 列柱 - 003
 49 矢作隆一(神奈川) 「何をしているの」

No. 作家名 作品名
 50 吉村榮雄(東京) 月夜に旅立つ
 ()内は居住地



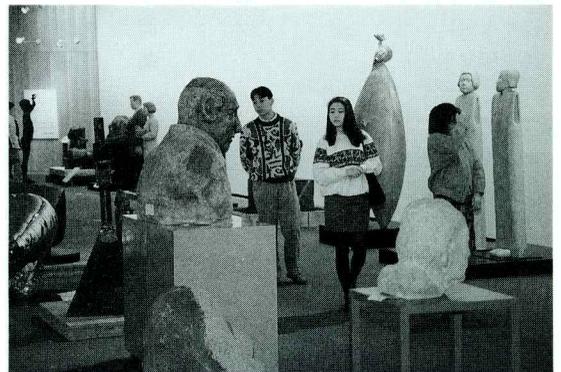
田中毅「草枕の旅」



中岡慎太郎「"FANTASY"」



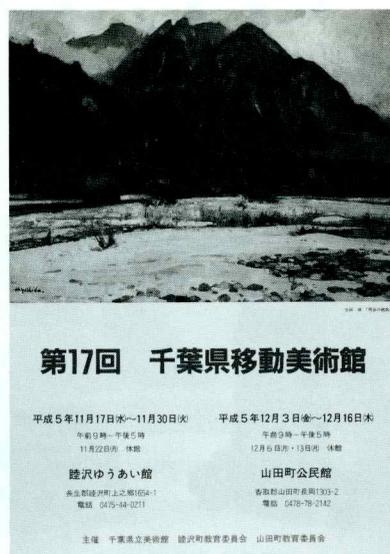
笠原鉄明「帰る日」



第17回 千葉県移動美術館

会 場 ①睦沢ゆうあい館
 ②山田町公民館
 会 期 ①平成5年11月17日(水)～11月30日(火)
 ② " 12月3日(金)～12月16日(木)
 展示点数 ① 36点 ② 36点
 入場者数 ① 1,104人 ② 590人

館収蔵作品を中心に、県展受賞作品の一部を加えて移動美術館
 を行い、美術品が身近に鑑賞できる機会を提供した。



出品目録

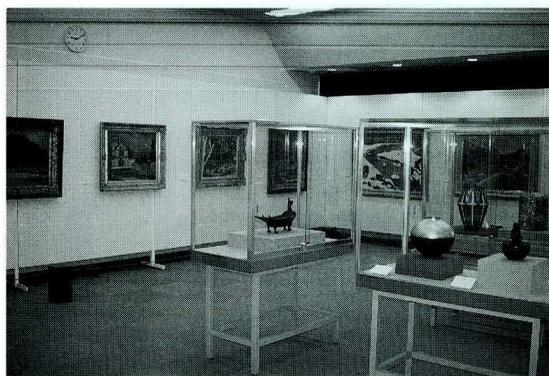
No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
「館収蔵作品」							
<日本画>							
1	村松乙彦	ア イ ヌ	1955	1	宮之原謙	釉嵌十字星結晶花挿	1932
2	富取風堂	夕	1960	2	津田信夫	鳳 翔 薫 炉	1937
3	立石春美	狗	1967	3	香取秀真	笑 獅 子 香 炉	1974
4	渡辺 学	川 口	1976	4	関谷四郎	銅 鉄 壺	1974
<洋画>							
1	浅井 忠	老 母 像	1906	5	横山光ノ介	戦 碑	1976
2	石井柏亭	聖フランチェスコ寺院	1923	6	藤田喬平	飾 筥・しだれ桜	1985
3	吉田 博	雨後の穂高山	1927	<版画>			
4	安井曾太郎	熱海附近	1929	1	浜口陽三	ざ く ろ	1958
5	中西利雄	トリエール・シュール・セーヌ	1930	2	星 襄一	星 の 森 (大)	1971
6	菅谷元三郎	沼 風 景	1935	3	深沢幸雄	青 い 裸 像 A	1975
7	梅原龍三郎	竹 窓 読 書 図	1937	4	池田良二	Together again	1979
8	今関啓司	浅 春 山 路	1943	5	牛玖健治	ゆ う え ん ち	1983
9	円城寺昇	岩		<書>			
10	鶴田吾郎	水 温 む	1968	1	小安花邨	パイロンの言葉	1966
11	小堀 進	霞 ケ 浦	1973	2	浅見喜舟	ト 居	1980
12	伊牟田經正	悲 劇	1977	3	鈴木方鶴	一 笑 千 山 青	1984
<彫刻>							
1	高村光太郎	手	1918	「第45回県展出品作品」			
2	大川遅一	聖 観 音	1967	1	小保方 清	九 十 九 里 浜 (洋画・県展賞)	1993
3	山本正道	ヴァージニア	1979	2	松本阪舟	抱 素 懐 朴 (書・県展賞)	"
4	佐藤忠良	ラ ッ プ 帽	1982	3	三浦明子	暁 の 波 (工芸・文部大臣奨励賞)	"
5	山崎 猛	木 馬 の 詩	1984				



睦沢町（睦沢ゆうあい館）



山田町（山田町公民館）



普及事業

美術講演会は、展覧会に併せ年5回開催した。

また、特別展「バルビゾン派と日本」の会期中に、ミュージアムコンサート「自然の調べと名曲への招待」を開催した。

実技講座は、経験者を対象とした美術館講座7種9講座(延89日)を開催した。

図書は、年間189冊収集し、現在4,404冊を収蔵し、情報資料室に於いて県民の利用に供している。

刊行物は展覧会に併せた図録、チラシ、ポスター、目録、更に館報2回、年報、事業案内、館概要などを刊行した。

そのほか、友の会事業による初心者を対象とした実技講座3種9講座(延50日)、美術鑑賞の旅等をはじめ、博物館実習生の受け入れ(8大学11人)などに協力した。

教育普及

美術講演会

美術に対する関心や理解を深める機会として、展覧会に併せて美術講演会を実施した。各講師ともスライドを用いて講演を行った。

特別展「デ・キリコ展」ではまず、7月3日に北海道立近代美術館長の井関正昭氏が、キリコの1920年代から1950年代までの作品を年代ごとにその特徴をとらえながら紹介し、20世紀美術に果たした彼の業績について話された。

特別展「バルビゾン派と日本」では、9月18日に日本女子大学助教授の馬淵明子氏が、自然を描いたバルビゾン派の画家たちの特徴とその美術史上の位置について話された。また、10月2日に大阪大学教授原田平作氏が、バルビゾン派と日本の画家たちとの関わりを話された。

企画展「秋山逸生展」では、11月27日に文化財保護審議会専門委員の木内武男氏が、独特の「木象嵌」の技法によって、国の重要無形文化財保護者（人間国宝）の認定を受けた逸生の作風や人となりについて話された。

企画展「第6回現代日本具象彫刻展」では、2月19日に徳島県立近代美術館長三木多聞氏が、現代彫刻の特徴について様々な作品の紹介を交えながら話された。



No.	期 日	演 題	講 師	聴講者数
1	7月3日(土) 2時～4時	デ・キリコの謎	井関 正昭 (北海道立近代美術館長)	142人
2	9月18日(土) 2時～4時	バルビゾン派と自然	馬淵 明子 (日本女子大学助教授)	153人
3	10月2日(土) 2時～4時	バルビゾン派と日本の画家たち	原田 平作 (大阪大学教授)	118人
4	11月27日(土) 2時～4時	秋山逸生の芸術	木内 武夫 (文化財保護審議会専門委員)	54人
5	2月19日(土) 2時～4時	現代彫刻への招待	三木 多聞 (徳島県立近代美術館長)	86人

ミュージアムコンサート

特別展「バルビゾン派と日本」の開催に併せ、「自然の調べと名曲への招待」と題して、9月25日、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のメンバーを中心にコンサートを行った。

演奏は、2部構成で第1部では、自然を描いたバルビゾン派の作品のイメージから自然に因む曲4曲を演奏。第2部では、バロック音楽の中から名曲5曲を演奏。主な曲目は次の通り。

＜第1部 自然に寄せて＞

- ・パストラル・シンフォニー（田園風序曲）（ヘンデル）
- ・フルートソナタ「忠実な羊飼ひ」（ヴィヴァルディ）
- ・精霊の踊り（グルック）など

＜第2部 バロックの名曲＞

- ・G線上のアリア（バッハ）
- ・コラール「主よ人の望みの喜びよ」（バッハ）など

「演奏者」

＜ソリスト＞

赤木りえ（フルート）／本庄篤子（ヴァイオリン）

＜合奏・司会＞

鈴岡淳子（ヴァイオリン）／伊藤耕司（チェロ）

宇佐美久恵（ヴィオラ）／戸室尚子（チェンバロ）

黒川 健（コントラバス）／中里かほり（司会）



実技講座

(1) 日本画講座

期 日 平成5年7月23日(金)・24日(土)・25日(日)・28日(水)・29日(木)・30日(金)・31日(土) 8月3日(火)・4日(水)・5日(木)
(10日間／うち講師指導日数は8日間)

講 師 斎藤 惇氏

受講者数 20人

内 容 経験者を対象として、花・くだもの・人物等のモチーフにより制作した。同時にドーサの作り方・絵の具・にかわ・筆・紙等の材料・道具の取り扱い方など基礎的な学習の後、彩色の技法について学習した。



(2) 洋画講座

期 日 第1期 平成5年5月18日(火)・19日(水)・21日(金)・22日(土)・23日(日)・25日(火)・26日(水)・27日(木)・29日(土)・30日(日) 6月1日(火)・2日(水)

第2期 平成5年11月11日(木)・12日(金)・17日(水)・18日(木)・19日(金)・20日(土)・21日(日)・23日(火)・24日(水)・25日(木)
(各10日間／うち講師指導日数は各7日間)

講 師 第1期 戸田 健夫氏

第2期 松沢 茂雄氏

受講者数 第1期 30人

第2期 33人

内 容 経験者を対象として、第1期(水彩)は静物、人物を、第2期(油彩)は人物をそれぞれモチーフとして、デッサン、構図、彩色などの基礎的技法と、より幅広い表現について学習した。



(3) 版画講座

期 日 平成5年6月15日(火)・16日(水)・17日(木)・19日(土)・20日(日)・22日(火)・23日(水)・25日(金)・26日(土)・27日(日)・29日(火)・30日(水)
(12日間／うち講師指導日数は7日間)

講 師 増田 陽一氏

受講者数 12人

内 容 経験者を対象として、銅板・亜鉛板を素材に、凹版画の制作を通して材料や用具の扱い方、エッチングやアクアチントなどの各技法、更に刷りの技法について学習した。



(4) 彫刻講座

期 日 平成5年10月19日(火)・20日(水)・21日(木)・22日(金)・23日(土)・24日(日)・
26日(火)・27日(水)・29日(金)・30日(土)・31日(日) 11月2日(火)
(12日間／うち講師指導日数は7日間)

講 師 渋谷 三朗氏

受講者数 15人

内 容 経験者を対象として、木を素材に、人物の表現方法、更に道具の
取り扱い方を学習した。



(5) 陶芸講座

期 日 第1期 平成5年6月8日(火)・9日(水)・10日(木)・11日(金)・12日(土)・
13日(日) 7月・1日(水)・7日(水)・21日(水)
第2期 平成5年11月9日(火)・10日(水)・11日(木)・12日(金)・13日(土)・
14日(日) 12月3日(金)・8日(水)・16日(水)
(各9日間／うち講師指導日数は各5日間)

講 師 第1期 鎗田 和平氏

第2期 神谷 紀雄氏

受講者数 第1期 42人

第2期 29人

内 容 経験者を対象として、信楽土を素材にかき落とし、象嵌、上絵付
などをはじめ粘土、ロクロ、窯詰め、施釉、焼成等について学習
した。



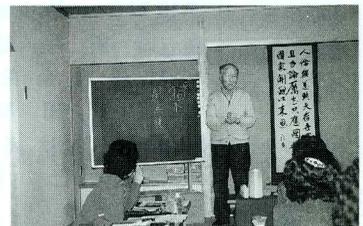
(6) 書芸講座

期 日 平成5年11月30日(火) 12月1日(水)・2日(木)
(3日間／うち講師指導日数は3日間)

講 師 中村 象閣氏

受講者数 23人

内 容 経験者を対象として、漢字を中心に様々な表現について学習した。



(7) 金工講座

期 日 平成6年1月25日(火)・26日(水)・27日(木)・28日(金)・29日(土)
2月1日(火)・2日(水)・3日(木)・5日(土)・6日(日)・8日(火)・9日(水)
(12日間／うち講師指導日数は8日間)

講 師 小林 正利氏

受講者数 16人

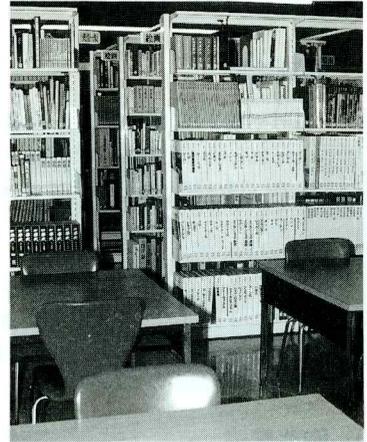
内 容 経験者を対象として、銅板のレリーフ制作を通し金工の基礎的技
法とより幅広い表現について学習した。



情報資料室

毎週火～金曜日（祝日・休館日を除く）12時30分～4時30分に開室し、県民の方々の美術情報資料（図書、雑誌、図録、新聞等）の利用に供した。また、特別展や企画展の開催に伴い、展覧会への一層の興味と理解を深めていただくため、関係図書類のコーナーを設けるなど時宜に併せた対応に努めた。さらに、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、ポストカード、情報誌などにより美術情報提供を行った。

なお、5年度の情報資料室における収蔵図書については92冊を購入、97冊を受贈し、美術情報資料の充実を図った。



購入

	書名	刊行年	発行所	編著者名
美術総記	白樺の林	1919	聚英閣	白樺同人著
	バウハウス叢書13 キュービズム	1993	中央公論美術出版	アルベール・グレーズ著
	バウハウス叢書14 材料から建築へ	1992	〃	L・モホリ＝ナギ著
	美術館シリーズ6 ノイエ・ピナコテーク	〃	みすず書房	クリスティアン・レンツ著
	美術館シリーズ8 ヴィクトリア & アルバート美術館	〃	〃	エリザベス・エステイほか著 ーヴ＝コール
	日本近代美術事件史	1993	東方出版	瀧梯三著
	日展史24 新日展編4	〃	日展	日展史編纂委員会編
	河北倫明美術時評集4 作家評・作品評下	〃	思文閣出版	
	美術館とは何か	〃	鹿島出版会	ダニエル・ジロディ 共著 アンリ・アイル
	美の裏方・学芸員からのメッセージ	〃	べりかん社	朝日新聞マリオン編集部編
	近代日本美術教育の研究 明治時代	1992	中央公論美術出版	金子一夫著
	日本美術作品レファレンス事典 絵画篇 浮世	1993	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ編
	絵画	劉生繪日記 第1～3巻	1978～79	龍星閣
岸田劉生 椿貞雄の回想から		1961	雪華社	東珠樹著
岸田劉生 装幀画集		1975	東出版	〃 編著
木村莊八全集 全8巻		1982～83	講談社	
自選安田靉彦画集		1971	朝日新聞社	安田新三郎著
京都に於ける日本畫史		1929	京都精版印刷社	神崎憲一著
野間仁根画集		1980	三彩新社	三彩新社編集部編
プロレタリア絵畫論		1930	天人社	永田一脩著
老画家の一生上・下		1963	中央公論美術出版	津田青楓著
牧野虎雄画集		1958	日動画廊	牧野虎雄遺作保存委員会編
元永定正作品集		1984	灰塚輝三	千葉篁一ほか編
アルフォンス・マリア・ミュシャ 生誕100周年と芸術		1989	ドイ文化事業室	ジリ・ミュシャ (イージュー・ムハ)著
日本の水彩画3～6, 8～11, 15～17, 19巻		〃	第一法規出版	原田実ほか編
中村彝作品集		1926	中村彝作品刊行會	
松丘映丘畫集		1937	美術往来社	猪木卓爾編
鹿子木孟郎畫集	1934	鹿子木郎畫伯還曆記念會		
小山正太郎先生 NHK日曜美術館の画家・巻 回想の画家1～5	1993	不同舎舊友會 日本放送出版協會	高村眞夫編	
彫刻	定本 木内克	1974	現代彫刻センター	海上雅臣編
	藤川勇造ノート	1988	藤川勇造ノート刊行會	山浦健夫著

	書名	刊行年	発行所	編著者名
彫刻	写真集彫刻のある風景	1993	新日本出版社	藤田観龍著
	石井鶴三素描集 第3巻	"	形文社	
	マイヨールの藝術	1921	日本美術學院	田中喜作著
	現代日本の野外彫刻	1991	講談社	第一出版センター編
工芸	森の掟	1993	小沢書店	酒井忠康著
	高村豊周文集Ⅱ・Ⅲ	1992~93	文治堂書店	
	人間国宝事典 工芸・技術編	1993	芸艸堂	
	江戸蒔絵 図譜	"		深山美峰著
書	民藝四十年	"	岩波書店	柳宗悦著
	高澤南総作品集	1976	八硯会	
	小川瓦木作品集	1981	東京堂出版	小川瓦木編著
	定本墨場必携集成 全5巻	1987	雄山閣僚出版	北川博邦編
版画	日本銅版画志	1971	全国書房	西村貞著
	日本版畫変遷史	1981	五月書房	島屋政一著
	長谷川潔版画作品集	"	美術出版社	
	上野誠全版画集	"	形象社	上野適編
デザイン 建築	パウル・ヴンダーリッヒ版画作品集	1986	美術出版社	
	文様の事典	1991	東京堂出版	岡登貞治著
	ウィリアム・モリス	1990	講談社	ジリアン・ネイラー編
	雑誌	生活美術 全27冊揃	1941~43	アトリエ社
一般図書	造形藝術 21冊(3冊欠)	1939~41	造形藝術社	藤本詔三編
	第二次明星復刻版 全6帙入48冊揃	1980	臨川書店	
	漢詩名句辞典	1992	大修館書店	鎌田正, 米山寅太郎共著
	日本書籍総目録1993 書名編 1~3巻, 索引編	1993	日本書籍出版協会	日本書籍出版協会編
	評論家人名事典	1990	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ編

受贈

	書名	刊行年	発行所	編著者名
美術総記	日本美術院百年史 14巻	1993	日本美術院	日本美術院百年史編集委員会編
	長野県美術全集8	"	郷土出版社	石沢清ほか編・執筆
	信州の水彩画と版画芸術	"	講談社	高階秀爾ほか編著
	日本美術全集24 近代の美術Ⅳ 建築とデザイン	"	日展	
	日展史 23 新日展編 3	"	日展	
	日本美術年鑑 平成3年版	1992	東京国立文化財研究所	東京国立文化財研究所 美術部編
	" 平成4年版	1993	"	"
	創造の感動に生きる	1989	扶桑社	鹿内信隆著
	福島近代美術	1992	三好企画	村山鎮雄著
	彩藝文ギャラリー10年のあゆみ	1993	常陽藝文センター	藝文ギャラリー編
	創二十世紀を語る	"	前田屋外美術	前田屋外美術編
	出会いとともに半世紀	"	梅田画廊	村上隆徳編
	水彩の指導	"	日本文教出版	戸田健夫著
	東京周辺の美術館	"	講談社	講談社編
	旅のガイドムック SELECT 3 旅と美術館 270選	1991	近畿日本ツーリスト	大國千恵編
	名画と出会う美術館9 日本の近代洋画	1992	小学館	日本アート・センター編
	創造	1983	広論社	広論社編集局著
	創造の森 草月 1927-1980	1981	草月出版	草月出版編集部編著
	めぐり会い わが師, わが友	1983	広論社	広論社出版局編
身体の現在形 芸術はからだからだ	1992	愛知芸術文化センター	フォト・リワード編	

	書名	刊行年	発行所	編著者名
美術総記	大分の近代美術	1992	海鳥社	後藤龍二著
	ロンドンおもちゃ・模型博物館	1993	岩崎美術社	藤田トイミュージアム財団編
	もっと美術館を楽しむ本	〃	ヨナ書房	保坂清著
	ソ連の美術	1969	ソ連の美術刊行会	
	様式の喪失	1993	芸術新聞社	瀬木慎一著
	国立西洋美術館三十年史	1989	国立西洋美術館	
	若いヨーロッパ	1979	中央公論社	阿部良雄著
	ちばの博物館	1994	千葉県博物館協会	千葉県博物館協会編
絵画	日本の水彩画 20 不破章	1989	第一法規出版	米田耕司編
	林功画集	1992	求龍堂	
	聖家族 1993 高山辰雄画集	1993	講談社	第一出版センター編
	峰村リツ子画集	〃	時の美術社	井上憲彦ほか編
	岡田節子画集	〃	美術出版社	
	大塚敏雄裸婦画集	〃	東京ジャーナルセンター	推橋久編
	山元恵一作品集	〃	那覇市文化局文化振興課	山元恵一回顧展実行委員会編
	鏑木昌弥作品集I 後ろ向きと背中のあいだ	〃	アートギャラリー環	アートギャラリー環編
	IMAI Hommages à Venise	〃		
	ゴトウ・シュウの仕事	〃	プロジェクトG-501A	プロジェクトG-501A編
	清水一童画集	〃	日本新評論社	朝日新聞名古屋本社 編集制作センター編
	中村貞夫画集 第六卷	1994	中村貞夫	
	浅野竹二グワッシュ作品集	1993	浅野竹二グワッシュ 作品集刊行会	
	早川義孝作品集 四季吟遊思想画人	〃	学習研究社	前山博志ほか編
	兒島虎次郎略伝	1992	兒島虎次郎伝記編纂室	兒島直平著
	大分県先哲叢書 田能村竹田	1993	大分県教育委員会	宗像健一著 大分県教育庁文化課編
	西洋美術讀本	1928	平凡社	石井柏亭著
	炎の白面にためらふ如く	1988		佐々木央著
	NHK趣味講座 絵画入門	1983	日本放送出版協会	日本放送協会編
	朝井閑右衛門 不動明王画集	1993	朝井閑右衛門の会	日動出版部編
	長谷川良雄画集	1994	長谷川景子	
	谷川俊太郎「旅」香月泰男	1968	求龍堂	
	Giorgio de Chirico 1920-1950	1989	Electa	
	F r i t z L a n g	1992	Konrad Theiss Verlag	
	J E A N D U B U F F E T	〃	GALERIE DANIEL GERVIS	
	神楽雛子がきこえる			石井成児著
	石井武夫作品集	1990	芳山明	
	現代画家精選1 塩水流功	1973	貢真社	岡哲郎編
	島崎マスオ作品集		日本ハイタッチソシアル協会	
	岡本太郎	1978	表現舎	川桐信彦著
	智内兄助「蔵」さしえ画集	1993	毎日新聞社	
	芸術家たちの丘	〃	美術公論社	東珠樹著
	紅薔薇 秋元松子歌集	1984	崙書房	
	高野春作品集			
	森掬生画集	1984	森掬生画集頒布会陶仙房	
	星の群	1953	江馬嵩	江馬嵩著
原勝郎画集	1994	原勝郎画集刊行委員会		
山本廣作品集	1992	月精舎	嶋崎吉信編	
彫刻	三木貞夫作品集	1993	三木瓊子	三木雄志, 名村陽子共編
	彫刻家中川為延作品集	〃	溪声出版	中川為之編

	書名	刊行年	発行所	編著者名
	菅原安男作品集	1993	菅原安男	聖豊社編
	彫刻家伊藤忠義	"	ノーベル書房	
	NAGARE RECENT SCULPTURE	1992	サドルバレーアソシエイト	ナガレストジオ編
	字部の彫刻	"	宇部市	新集社編
	波の伊八	"	ロング出版	長谷川治一編著
	千葉市の仏像	1992	千葉市教育委員会 社会教育部文化課	
	房総の仏像彫刻	1993	千葉県教育委員会	千葉県教育生涯学習部文化課
	彫刻に触れるとき	1985	用美社	
	阿井典作品集 魚礁	1984	阿井喜久子	
	土屋公雄彫刻作品集	1992	アトリエ出版社	
工芸	終わりのない物語	1993		
	染織の文化	"	北海道伝統美術工芸村	中島純著 国際染色美術館編
	アイルランドの奔流	"	フジタヴァンテ	ヴァンテミュージアム編
	艶のかたち 金沢	1992	高桑美術印刷	田原桂一著 出島二郎編
	新工芸の美と心	1993	日本新工芸家連盟	日本新工芸家連盟
	城後了太作品集		日本ハイタッチソシアル協会	
書	万葉抒情 小暮青風書作集	1993	名著刊行会	
	日高誠實遺墨集	"	実業之日本社	中村象閣編
	関根薫園書作集	"	書道研究墨技会	
	米寿記念 桑原翠邦作品集	"	教育書籍会	
	今関脩竹遺墨集	1991	藍筍会	
	紫林木翰	1988		田中幸男著
版画	リトグラフの技術	1993	真理舎	前澤征男, 友松浩志共著
	北岡文雄 ミュージアム新書13	"	北海道新聞社	佐藤友哉著 北海道立 近代美術館編
	永瀬義郎 放浪貴族	1988	ネオアカシア出版企画	
写真映像	ドアノ-写真集	1992	リポレポート	アルヴィヴァン 共編 ソモージ正子
	" 1.パリ	"	"	"
	" 2.子どもたち	"	"	"
	" 3.ポートレイト	"	"	"
	" 4.パリ郊外	"	"	"
	土門拳 手-ぼくと酒田	1983	土門拳記念館	酒田本の会編
	商業写真と特殊技術	1956	遠山直道	グラフィック集団編
	小澤俊樹作品集Ⅲ	1993	フォトテック	
一般図書	縮約日本文学大辞典 全	1955	新潮社	藤村作編
	企業の社会貢献	1992	日本経済新聞社	電通総研編
	NATIONAL GEOGRAPHIC ATLAS OF THE WORLD	1981	NATIONAL GEOGRAPHIC SOCIETY	
	石造馬のり馬頭観音	1992	馬事文化財団	馬事文化財団馬の博物館編
	千葉歳時記	1981	崙書房	高橋在久著

分類別図書数 (平成6年3月31日現在)

分類	平成4年度まで	平成5年度	計
美術総記	1,304	36	1,340
絵画	1,208	78	1,286
彫刻	195	19	214
工芸	320	13	333
書	134	12	146
版画	105	8	113
デザイン・建築	60	2	62
写真・映像	162	7	169
その他	45	0	45
雑誌 (合冊・復刻)	340	3	343
一般図書	342	11	353
合計	4,215	189	4,404

区分	平成4年度まで	平成5年度	計
購入図書	2,341	92	2,433
受贈図書	1,874	97	1,971
合計	4,215	189	4,404

(展覧会図録を除く)

刊行物一覧

名称	規格	頁数	発行部数
千葉県立美術館報 Vol.20 No.1~2	B5	6	各2,000
平成4年度版 千葉県立美術館年報	B5	55	1,000
常設収蔵作品展 目録	B5	(I期)前期 6 後期 2 (II期)前期 4 後期 2 (III期)前期 2 中期・後期 2 後期 4	3,000 2,000 3,000 3,000 5,000 3,000 2,000 1,000
ポスター	B2	1	1,000
特別展 図録 「デ・キリコ展」	24.5×24.5 B5	161 2	1,000 25,000
ポスター	B2	1	1,500
車内吊ポスター	B3	1	2,400
特別展 図録 「バルビゾン派と日本」	29.6×20.7 B5	194 2	1,000 30,000
ポスター	B2	1	1,500
車内吊ポスター	B3	1	2,300
企画展「秋山逸生展」 図録	24.0×19.0	66	350
ちらし	B5	2	5,000
ポスター	A2	1	1,000
企画展 募集要項 「第6回現代日 図録」	21.0×58.8 24.0×24.7	3折 66	10,000 1,000
本具象彫刻展 ちらし	B5	2	10,000
公募用ポスター	B2	1	4,000
展覧会ポスター	B2	1	1,000
平成6年度事業案内	A4変形	3折	20,000
千葉県立美術館概要	A5	8	3,000

活動協力

千葉県立美術館友の会

1. 目的

“みる・かたる・つくる”という美術館活動に積極的に協力し、楽しい雰囲気の中で、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める。

2. 組織

- (1) 会員数 個人会員 652人 賛助会員 2人
(2) 役員 会長 1人 副会長 3人 監事 2人 理事 若干名

3. 事業

- (1) 友の会だより「しおさい」の発行、年4回。各1,000部印刷し、会員に配付した。
(2) 第17回葉美会展の開催 会期/平成5年8月31日(火)～9月5日(日)
出品者 43名 展示点数 70点
(3) 秋の美術鑑賞の旅 美術品や文化財を訪ねながら、親睦も深めるために実施した。
① 日時 10月7日(水)
② 行先 夷隅郡大多喜町(ハーブアイランド・ベジタブルガーデン)
“ 夷隅町(夷隅町郷土資料館・行元寺)
“ 御宿町(月の沙漠記念館・御宿町歴史民俗資料館)
③ 参加者数 50人
(4) 館事業への協力
館に協力して、特別展等の図録販売・実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に参加した。
(5) その他
テレホンカード・絵はがき・額縁・額絵・図書等の販売

4. 平成5年度 友の会実技講座

講座名	期 日	日数	受講者数	講 師
洋画入門講座(1)	6月22・23・24・25・26・27日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	6	35	熊谷文利
” (2)	7月6・7・8・9・10・11日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	6	35	関和弥
” (3)	8月24・25・26・27・28・29日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	6	31	根岸茂行
” (4)	10月23・24・30・31 11月6・7日 (土)(日)(土)(日)(土)(日)	6	33	戸田健夫
” (5)	12月7・8・9・10・11・12日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	6	22	渡辺晋
” (6)	1月18・19・20・21・22・23日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	6	33	関和弥
日本画入門講座	11月23・24・25・26・27・28日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	6	24	斎藤 惇
デッサン入門講座(1)	9月7・10・11・12日 (火)(金)(土)(日)	4	29	御園正男
” (2)	2月17・18・19・20日 (木)(金)(土)(日)	4	34	根岸茂行



第17回葉美会展(合評会)



秋の美術鑑賞の旅(行元寺)



秋の美術鑑賞の旅
(月の沙漠記念館)

博物館実習

各大学の依頼により学芸員資格取得希望の学生を下記のとおり受け入れた。

平成5年7月26日～7月31日

お茶の水女子大学1人、武蔵大学1人、群馬県立女子大学2人、千葉大学2人、学習院大学1人、
トキワ松学園女子短期大学1人、女子美術大学1人、跡見学園女子大学2人 (計11人)

その他

平成5年5月3日～6月16日 千葉日報に特別展「デ・キリコ展」開催に伴う原稿提供。12回連載。

9月1日～10月6日 千葉日報に特別展「バルビゾン派と日本」開催に伴う原稿提供。12回連載。

資料貸出一覧

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
浅井 忠	曳舟通り 千石船 藁屋根 帆船の図	「油絵・日本展」 写真、舞妓、季語のある風景	5.4.17～5.16 郡山市立美術館	郡山市立美術館
浅井 忠	餓鬼図	のんのんばあが案内する 「水木しげると日本の妖怪」展	5.7.20～8.28 東京・日本橋三越本店	NHKプロモーション
小堀 進 三宅克己	雨後の山(信州) 小諸城址	「心に響く信州の風景画名作選」	5.7.24～8.29 長野県信濃美術館	長野県信濃美術館
富取風堂	游鯉(其一) ”(其二)	「大正日本画の若き俊英たち— 今村紫紅と赤曜会」	5.8.21～9.23 東京都庭園美術館	東京都庭園美術館
東山魁夷	春雪	「東山魁夷—青の世界」	5.9.4～10.3 北海道立近代美術館	北海道近代美術館
浅井 忠 安井曾太郎 ” ” ジャン・ポール・ ローランス	男性裸像 デッサン(裸婦) ” ” カルカッソンの 幽閉者の解放	「若き日の中村不折とその時代」	5.9.15～10.17 長野県信濃美術館	長野県信濃美術館
アントニオ・ フォンタネージ	神女之図	「描かれた歴史」展	5.9.18～10.24 兵庫県立近代美術館	兵庫県立近代美術館
石井林響 浅井 忠 ” ” ”	木華開耶姫 貔子窩第二軍司令部 金州城南門外 金州城壁上 平壤大同江煉光亭		5.10.30～12.5 神奈川県立近代美術館	神奈川県立近代美術館
浅井 忠 ”	鎌倉建長寺(2) 鎌倉	「湘南の文学と美術」	5.9.18～10.17 平塚市美術館	平塚市美術館 神奈川文学振興会
浅井 忠 ”	松 ほしかき	「近代の文人画」	5.9.23～10.24 宮城県立美術館	宮城県立美術館
石川欽一郎 石井柏亭 不破 章 小堀 進 ”	水辺 裏磐梯の秋 三人姉妹 ロンドンの朝 山	「日本近代水彩画と水野以文— とき放つ光、込められる時間—」	5.9.24～10.22 浜松市美術館 11.3～12.5 河口湖美術館	浜松市美術館 河口湖美術館
富取風堂 ” 若木 山 富取風堂	漁港の朝 親子猿 海女 花	「再興日本美術院八十年記念展」	5.10.5～10.17 東京・日本橋高島屋 5.10.21～11.7 長野県信濃美術館 5.11.10～11.15 名古屋・三越栄本店	日本美術院 日本経済新聞社
椿 貞夫	八重子像	「日本近代洋画の歩み」	5.10.8～11.7 豊橋市美術博物館	豊橋市美術博物館
中西利雄 ” ” ”	南仏風景 人物 四人の女 曇り日の離宮と駅	「藤島武治と 9人の若き洋画家たち」	5.10.17～11.21 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
鈴木治平	湿原の詩	「鈴木治平・平松保城 退官記念展」	5.11.1～11.13 東京芸術大学資料館	東京芸術大学資料館
宮田宏平	生命の透問風	「宮田宏平三代藍堂襲名展」	5.11.3～11.9 新潟・伊勢丹	新潟日報社 日本放送協会新潟放送局
帖佐美行	香実と想鳥(集いの為の酒器セット)	「宇宙に捧げる彫金の詩・ 帖佐美行近年の足跡展」	5.11.17～11.29 西武アートフォーラム	西武アートフォーラム

調査・収集事業

当館の学芸員等が行っている従来の調査研究事業に加え、本年度も、客員研究員4名を委嘱し、その指導助言等の協力を得て、美術館活動の内容充実を図った。

資料収集については、洋画20点、彫刻1点、工芸15点、書3点、版画24点を新たに収集した。

その他、基金により現代日本具象彫刻展の受賞作品3点を取得した。

収蔵資料

<洋画>

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	赤城泰舒	普陀正趣亭	1936	紙・水彩	28.3×38.0	購入
2	"	杭州葛嶺	1936頃	"	38.3×28.3	"
3	"	多宝塔	"	"	28.3×38.2	"
4	浅井忠	小丹波村	1893	キャンバス・油彩	25.5×22.0	"
5	"	旅順戦後の捜索	1895	紙・ペン	23.3×14.4	"
6	"	白樺(図案)		紙・水彩	15.4×23.1	"
7	"	鷺鳥(〃)		"	15.7×23.1	"
8	石井光楓	初霜	1964	キャンバス・油彩	73.0×99.0	寄附
9	"	山番の小屋	1971	"	61.0×73.0	購入
10	国枝金三	大阪風景	1909	紙・水彩	33.3×24.5	寄附
11	十亀広太郎	道	1921	"	48.5×32.7	"
12	"	女	1924	"	31.8×47.2	"
13	"	上野公園池畔	"	"	32.0×49.0	"
14	"	池	1950	キャンバス・油彩	73.0×90.8	"
15	"	湖畔の樹		紙・水彩	36.0×27.8	"
16	"	犬吠埼		"	48.0×61.0	"
17	フランソワ・ オーギュスト・ラヴィエ	たそがれ	1885	"	32.0×20.0	購入
18	"	モレステル風景		カルトン・油彩	31.5×33.0	"
19	"	モレステル風景(沼)		キャンバス・油彩	27.0×20.5	"
20	"	川辺		鉛筆・水彩	30.2×22.2	寄附

<彫刻>

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	長谷川昂	花の国の母神	1961	木彫	165.0×73.0×60.0	寄附

<工芸>

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	川上祥三郎	黄釉鳥紋大花器	1975	陶芸	高32.0×径35.7	寄附
2	"	釉彩草文大皿	1984	"	高7.7×径43.8	"
3	中基瑞真	桐経箱	1992	木工	9.1×18.2×26.1	"
4	"	十六弁菱形盤		"	8.5×36.2×31.9	"
5	"	桐菱形塗輪花盛器		"	8.2×31.5×27.5	"
6	信田洋	透彫菖蒲文筥		彫金	8.7×18.5×24.6	"
7	二口志保子	緑の頃	1961	染織	165.0×93.5	"
8	"	翔ける	1964	"	183.3×73.0	"
9	"	水面	1967	"	175.6×80.8	"
10	"	動	1968	"	171.0×74.0	"
11	"	初夏	1969	"	175.0×82.0	"
12	"	花		"	177.0×62.2	"

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
13	二口志保子	紬織着物		染織	丈144.2×桁60.5	寄附
14	宮之原謙	紬嵌よろけ縞と盛上円壺		陶芸	高45.8×径31.5	〃
15	〃	象嵌磁サボテン壺		〃	高37.4×径31.1	〃

< 書 >

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	千代倉桜舟	大王のひすめの音も…	1979	紙・墨	50.5×69.7	寄附
2	〃	宗左近詩(縄文太鼓より)	1993	屏風・紙・墨	223.4×155.2	〃
3	中村象閣	万葉二首	1994	紙・墨	227.0×52.3	〃

< 版 画 >

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	深沢幸雄	記録	1965	紙・銅版	60.2×36.0	購入
2	〃	洞窟	1966	〃	59.8×35.8	〃
3	〃	伝説	〃	〃	60.5×36.0	〃
4	〃	扉たち	1967	〃	60.0×36.5	〃
5	〃	扉と訪問者(青)	〃	〃	59.8×36.5	〃
6	〃	行きずりの人(青)	1968	〃	71.5×45.5	〃
7	〃	悠久に続く赤い線	1971	〃	74.8×50.0	〃
8	〃	奈落	〃	〃	73.5×49.8	〃
9	〃	遺伝(青い影)	1972	〃	74.0×49.0	〃
10	〃	胎動(メヒコ)	1975	〃	75.0×50.0	〃
11	〃	影の中の恋人	1978	〃	50.0×75.0	〃
12	〃	この遥かな遠い道	1979	〃	74.8×49.7	〃
13	〃	天空を計る	〃	〃	75.0×50.0	〃
14	〃	新しき土	1981	〃	74.3×49.6	〃
15	〃	訪ねてくる人	1982	〃	36.0×39.5	〃
16	〃	城郭の中の人	1983	〃	74.4×42.0	〃
17	〃	星屑劇場	〃	〃	74.5×49.6	〃
18	〃	憂愁市街	1984	〃	〃	〃
19	〃	憂愁市街(迷路)	1985	〃	〃	〃
20	〃	顔の地図	1988	〃	49.5×36.1	〃
21	〃	小鳥紳士	〃	〃	36.1×29.7	〃
22	〃	ロック	1990	〃	49.6×36.1	〃
23	〃	白い抒情の人	1992	〃	74.5×49.5	〃
24	〃	憂愁(青い裸像)	〃	〃	〃	〃

< 千葉県美術品等取得基金購入一覧 >

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	種別
1	笠原鉄明	帰る日	1993	木	185.0×179.5×70.0	彫刻
2	田中毅	草枕の旅	〃	石	110.0×180.0×110.0	〃
3	中岡慎太郎	"FANTASY"	〃	〃	150.0×130.0×100.0	〃

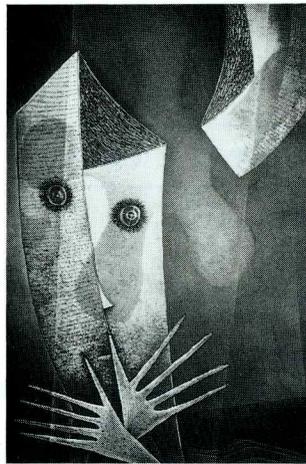
収蔵資料数一覧

(平成6年3月31日現在)

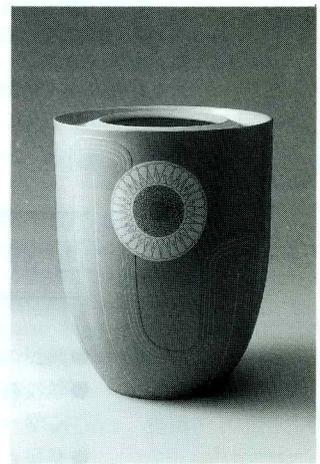
種別	区分	購 入	寄 附	保 管 換	合 計
日 本 画		104	132	25	261
洋 画		317	365	40	722
彫 刻		76	25	10	111
工 芸		106	86	10	202
書		27	59	14	100
版 画		148	49	5	202
合 計		778	716	104	1,598
研究資料		243	1,215	53	1,511



浅井 忠「小丹波村」



深沢幸雄「白い抒情の人」



宮之原 謙「象嵌磁サポテン壺」

客員研究

●宮之原初子（故宮之原謙夫人）

陶芸家、宮之原謙の壁面照明作品「銀河」再現のための調査（実寸大図面の作成、陶器片の寸法取り、照明、布地決定、ガラス上段部分の作成、各部品を組み立てる）制作全体にわたる指導を受けた。

●石川陸郎（保存修復研究家）

美術館の保存環境維持のための指導を受けた。特に温湿度管理、美術館の空調設備の現状、収蔵庫の壁の断熱材等美術館建築について教示され、館内における保存科学上の指導を受けた。

●中村傳三郎（美術評論家）・細野正信（山種美術館学芸部長）

千葉県関係作家の活動状況、特に本県に生まれ、あるいは在住した作家、近代美術の創設期から現在活躍する作家について指導を受けた。

管 理 運 営

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・かたる・つくる」をモットーとして、総合的、かつ動的な美の広場を目標として展示・普及活動を行っている。

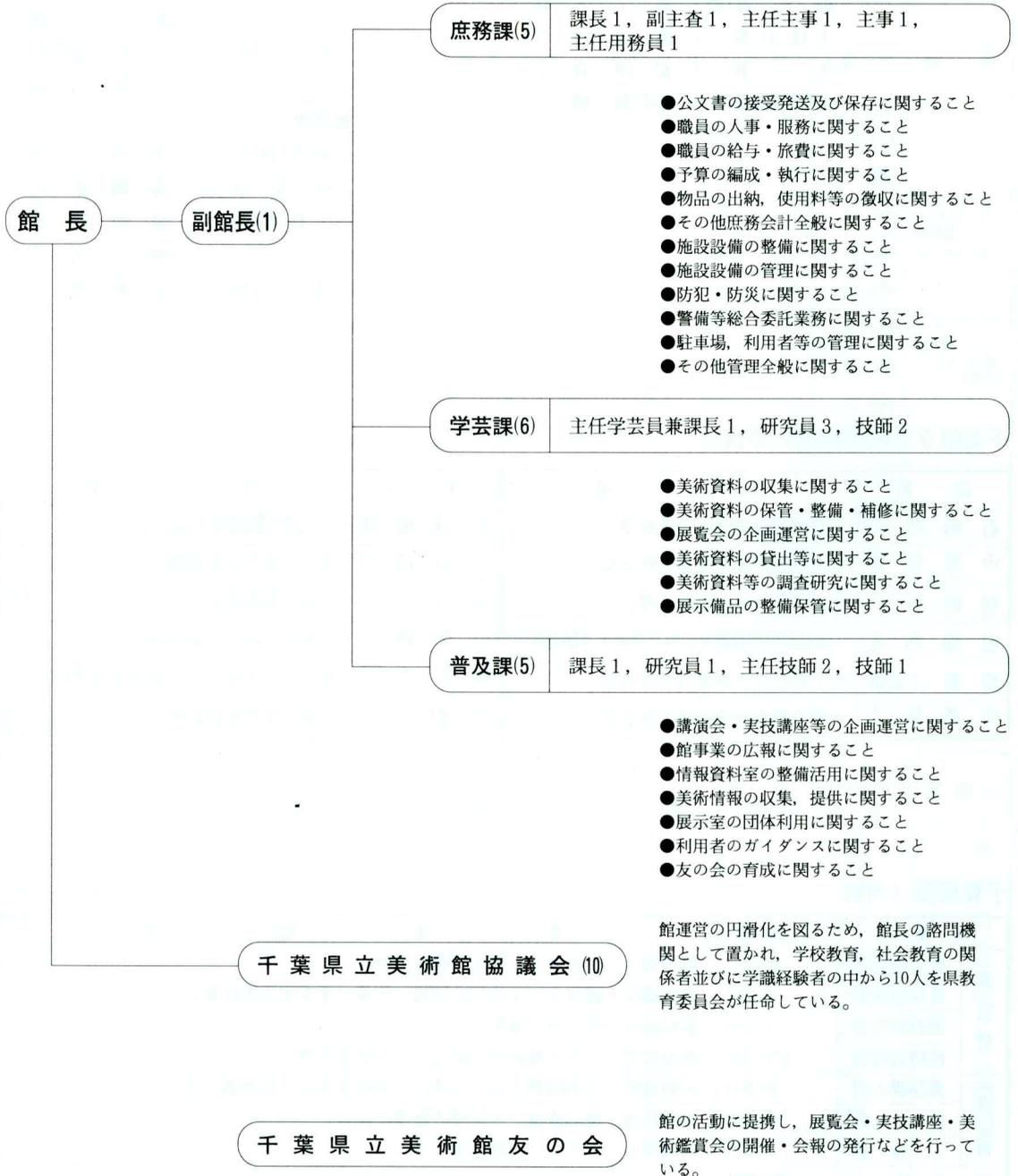
協議会では、美術館の運営について協議した。

運 営 方 針

- 県民のための美術館として、明るい親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある美術家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

機 構

組織及び事務分掌（6. 3. 31現在）



職員

館長 白石竹雄
 副館長 小池賢博
 庶務課
 庶務課長 所甚一
 副主査(派) 葛生久雄
 主任主事(〃) 渡辺和子
 主事(〃) 安西寿子
 主任用務員(〃) 長島則子

学芸課

主任学芸員 米田耕司
 兼学芸課長
 研究員(派) 大久保守
 " (〃) 前川公秀
 " (〃) 津田昇
 技師(〃) 中松満始
 " (〃) 三浦拓郎

普及課

普及課長 藤川正司
 研究員(派) 高橋正夫
 主任技師(〃) 金田雅成
 " (〃) 相川順子
 技師(〃) 加瀬綾子

千葉県立美術館協議会委員

氏名	役職	氏名	役職
石崎 朋夫	千葉県経営者協会専務理事	新城 瑠璃	ネスコ(備取締役)副社長 (千葉県立美術館友の会副会長)
市原 恒雄 (5.10.1~)	千葉県教育研究会造形部会長	戸田 禎佑	東京大学文学部教授
岩崎 吉一	東京国立近代美術館次長	長谷川 昂	千葉県美術会長
垣畑 利光	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長	山下 頼充	日本放送協会千葉放送局長
齋藤 志貴雄	前千葉県立千葉東高等学校長	藤井 チズ子 (5.10.1~)	共立女子大学文芸学部非常勤講師
佐藤 信夫 (5.9.30~)	千葉県教育研究会造形部会長	若桑 みどり	千葉大学教養部教授

予算概要 (当初)

(単位：千円)

事業名	予算額	事業概要
運営費	展示事業費	50,070 特別展2, 企画展2, 常設収蔵作品展
	普及事業費	2,934 実技講座・講演会の実施等, 館報・年報・事業案内等の発行
	調査研究費	1,212 資料調査, 研究員会議等
	維持管理費	167,593 施設管理, 設備・機械保守委託, その他運営費
施設設備費	備品購入費	56,400 美術資料, 美術図書, 展示用備品, 視聴覚備品, 図書備品等
	委託費	10,900 作品修復, 備品修復, 大規模改修事前調査
	工事費	4,400 空調用ヒートポンプ改修工事
合計	293,509	

注) 。職員の人件費・財団普及事業費は含まない。 。別に資料購入のため基金20億円。

利用状況

入館者数一覧

種別 月	開館 日数	個 人			団 体						人数合計	備 考
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生			
					人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数		
4	26	7,528	256	892	78	3	0	0	20	1	8,774	
5	26	10,836	421	1,847	235	8	41	1	0	0	13,380	
6	26	11,247	724	2,469	490	11	83	3	73	3	15,086	6/5~7/11 特別展 「デ・キリコ展」
7	27	9,039	553	2,212	294	10	0	0	133	4	12,231	
8	26	9,321	685	2,431	347	7	0	0	95	3	12,879	
9	26	12,659	739	2,365	557	14	35	1	188	3	16,543	9/4~10/11 特別展 「ハルビゾン派 と日本」
10	22	16,301	714	4,864	633	16	108	1	176	3	22,796	
11	21	13,666	1,342	1,701	492	13	291	3	188	2	17,680	
12	22	16,511	281	10,285	443	10	0	0	240	6	27,760	
1	23	9,206	381	2,832	274	10	0	0	341	3	13,034	
2	24	6,975	643	952	222	8	50	1	99	1	8,941	
3	24	8,985	436	1,599	127	5	0	0	154	4	11,301	
計	293	132,274	7,175	34,449	4,192	115	608	10	1,707	33	180,405	

開館以来 総開館日数 5,639日 総入館者数 3,292,586人

地域別入館者数

種別 月	開館 日数	県 内		県 外		外国人
		千 葉 市	そ の 他	東 京 都	そ の 他	
4	26	4,080	3,485	463	696	50
5	26	5,143	6,494	697	959	87
6	26	6,630	6,850	424	1,128	54
7	27	5,908	5,277	519	499	28
8	26	4,686	6,592	535	1,026	40
9	26	8,033	7,188	659	618	45
10	22	13,871	7,582	686	601	56
11	21	7,177	9,089	527	824	63
12	22	4,825	22,049	293	551	42
1	23	6,624	5,805	247	319	39
2	24	3,624	4,200	462	635	20
3	24	5,916	4,437	433	449	66
計	293	76,517	89,048	5,945	8,305	590

展示室利用団体

太字は県芸術フェスティバル事業

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 点 数
1	第30回全日本総合書道大覧覧会	4/6~11	書	1,220
2	第4回千葉県木彫会展	〃	彫 刻	39
3	第17回鳳聲会書作展	4/13~18	書	110
4	第63回郷陽会展	〃	洋 画	122
5	第7回ガラス絵コクリコ会展	〃	ガ ラ ス 絵	86
6	第33回千葉市アマチュア美術会展	4/20~25	絵画・書・彫刻・版画・工芸・デザイン	1,031
7	第19回武蔵野美術大学校友会千葉県支部展	4/27~5/2	洋 画	51
8	第20回千葉新協展	〃	〃	86
9	第13回千葉美術工芸展	4/27~5/9	工 芸	56
10	第19回歩会彫刻展	〃	彫 刻	43
11	千葉水彩展	5/4~9	洋 画	91
12	第24回表美展	〃	表装・額装・屏風	117
13	第11回日中友好書道展	5/11~16	書	5,654
14	第17回墨の県展	5/18~23	水墨画・日本画	296
15	第38回二科会千葉支部展	5/25~30	洋 画	936
16	第19回獏展	〃	洋画・彫刻・工芸・写真	67
17	第18回関東全展	6/1~6	日本画・洋画・工芸	204
18	第20回記念千虹会日本画展	6/1~13	日 本 画	42
19	第40回千葉県書道協会展	6/8~13	書	484
20	第16回新槐樹社千葉県支部展	6/15~20	洋画・彫刻・工芸	54
21	第16回千葉一陽展	〃	洋 画	136
22	千葉幼児絵画展	〃	絵 画	1,512

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 点 数
23	第 8 回 日 本 画 四 季 展	6 / 15 ~ 27	日 本 画	63
24	第 21 回 水 彩 連 盟 千 葉 支 部 展	6 / 22 ~ 27	洋 画	64
25	千 葉 二 紀 展	〃	〃	86
26	第 37 回 千 葉 県 小 中 学 校 書 写 展	6 / 29 ~ 7 / 4	書	1,200
27	第 11 回 明 日 を 拓 く 教 育 美 術 展	〃	児 童 画	2,000
28	第 7 回 カ ラ ー ダ ス ト 展	〃	洋 画	72
29	精 鋭 展	〃	〃	96
30	第 25 回 千 葉 市 水 墨 画 同 好 会 連 合 会 展	7 / 6 ~ 18	水 墨 画	465
31	第 10 回 千 葉 中 美 展	7 / 20 ~ 25	日 本 画 ・ 洋 画	56
32	第 81 回 習 美 会 初 夏 展	〃	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 水 墨 画	156
33	第 27 回 漱 雲 会 全 国 書 道 展	〃	書	679
34	第 14 回 龍 峽 書 道 会 千 葉 展	7 / 27 ~ 8 / 1	〃	548
35	日 本 水 彩 画 会 第 9 回 千 葉 県 支 部 展	〃	洋 画	58
36	太 平 洋 美 術 会 千 葉 支 部 展	8 / 3 ~ 8	洋 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸	137
37	60 周 年 記 念 聖 徳 学 園 教 職 員 芸 術 展	〃	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 彫 刻 ・ 写 真 ・ そ の 他	75
38	第 22 回 写 真 千 葉 県 展	8 / 3 ~ 15	写 真	1,110
39	第 21 回 千 葉 市 教 職 員 美 術 展	8 / 10 ~ 15	洋 画 ・ 彫 刻 ・ 書 ・ そ の 他	193
40	第 7 回 白 亜 会 千 葉 支 部 展	〃	洋 画	43
41	第 13 回 日 本 春 秋 書 院 千 葉 県 書 道 連 盟 展	8 / 17 ~ 22	書	109
42	第 一 美 術 協 会 千 葉 県 支 部 展	〃	洋 画 ・ 工 芸	90
43	第 23 回 い て ふ 会 彫 刻 展	〃	彫 刻	49
44	第 33 回 白 扇 書 道 会 展	8 / 24 ~ 29	書	4,466
45	第 18 回 葉 美 会 展	8 / 31 ~ 9 / 5	日 本 画 ・ 洋 画	70

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 数
46	第 25 回 千 葉 現 展	8/31~9/5	洋 画 ・ 工 芸	109
47	第 23 回 新 構 造 千 葉 支 部 展	"	洋 画 ・ 写 真	148
48	第 16 回 千 葉 等 迦 会 展	9/7~12	洋 画	57
49	千葉県高校芸術祭第26回合同写真展	"	写 真	358
50	第 9 回 日 本 書 道 学 会 千 葉 県 連 展	"	書	215
51	第31回新世紀美術協会千葉支部展	"	洋 画	70
52	第 25 回 フ ァ ン シ ー 洋 画 展	9/14~19	"	71
53	第 20 回 文 化 書 道 連 合 会 公 募 展	"	書	746
54	千 字 会 書 展	"	書	288
55	第 16 回 千 葉 県 写 真 展	9/14~26	写 真	132
56	第 43 回 デ ザ イ ン フ ェ ス タ CHIBA	9/21~26	デ ザ イ ン	133
57	第 40 回 千 葉 県 勤 労 者 美 術 展	"	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 書 ・ 写 真	258
58	第36回千葉市小中養護学校児童生徒総合展	9/28~10/3	絵 画 ・ 彫 刻 ・ 工 作 ・ そ の 他	4,784
59	第 4 回 千 葉 県 教 育 芸 術 祭	10/5~11	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 工 芸 ・ 書 ・ そ の 他	286
60	第 13 回 二 科 会 写 真 部 千 葉 支 部 展	"	写 真	85
61	第 45 回 千 葉 県 美 術 展 覧 会 (県 展)	10/16~11/14	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸 ・ 書	3,107
62	千葉県高校芸術祭「美術・工芸・書道作品展」	11/17~28	絵 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸 ・ 書 ・ デ ザ イ ン ・ そ の 他	2,566
63	第 38 回 こ ど も 県 展	11/30~12/12	絵 画	11,886
64	今 日 の 美 術 を 考 え る 会 展	12/14~19	立 体 ・ そ の 他	53
65	第11回明るい社会づくりポスターコンクール展	"	ポ ス タ ー	1,190
66	登 龍 社 ・ 宮 坂 会 書 初 展	1/5~9	書	438
67	富 士 百 景 写 真 展	1/11~16	写 真	105
68	第 5 回 日 本 童 謡 の 書 展	"	書	3,918

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 点 数
69	第 21 回 千 葉 書 壇 秀 抜 ・ 新 進 展	1 / 18 ~ 23	書	590
70	第 27 回 千 葉 県 老 人 ク ラ ブ 会 員 作 品 展	〃	絵 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸 ・ 書 ・ 写 真 ・ そ の 他	344
71	千 葉 市 観 光 絵 画 と 写 真 コ ン ク ル ー ル 作 品 展	1 / 25 ~ 30	洋 画 ・ 写 真	185
72	第 19 回 子 ど も 造 形 展	〃	洋 画 ・ 工 芸 ・ デ ザ イ ン ・ そ の 他	1,500
73	第 11 回 千 葉 県 医 師 会 美 術 展	〃	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 工 芸	111
74	第 36 回 千 葉 市 小 中 養 護 学 校 児 童 生 徒 書 写 展	〃	書	1,358
75	群 鴟 書 人 展	2 / 1 ~ 6	〃	49
76	第 9 回 書 星 選 抜 展	〃	〃	266
77	第 46 回 千 葉 県 小 中 高 校 書 初 展	〃	〃	768
78	千 葉 大 学 教 育 学 部 美 術 科 卒 業 制 作 展	2 / 8 ~ 13	洋 画 ・ 彫 刻 ・ デ ザ イ ン	49
79	第 28 回 千 葉 大 学 学 生 書 道 展	〃	書	111
80	幕 張 北 高 校 書 道 卒 業 制 作 展	〃	〃	88
81	千 葉 県 建 設 業 協 会 文 化 作 品 展	2 / 15 ~ 20	絵 画 ・ 工 芸 ・ 書 ・ 写 真	201
82	第 19 回 千 葉 県 民 写 真 展	2 / 15 ~ 27	写 真	349
83	和 洋 女 子 大 学 卒 業 展	2 / 22 ~ 27	書	75
84	第 23 回 千 葉 県 大 学 美 術 連 盟 展	〃	日 本 画 ・ 洋 画 ・ デ ザ イ ン ・ 工 芸	110
85	第 25 回 千 葉 市 民 美 術 展	3 / 1 ~ 21	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸 ・ 書 ・ デ ザ イ ン ・ 写 真	1,126
86	第 17 回 唱 和 会 書 展	3 / 23 ~ 27	書	103
87	第 41 回 書 星 教 育 部 展	〃	〃	1,006

施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下媒塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイル-先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、珪器質タイルを型枠代にしてコンクリートを一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2,400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施行時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m~2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防ぎ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルター、の3種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はCAV(定風量型)+VAV(可変風量型)方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常

に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示室の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収の亚克力拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80,000lx以上、30%の時間が50,000lx以上、50%の時間が25,000lx(平均)以上、90%の時間が5,000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50,000lx(薄暗)から5,000lx(曇天)の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン(これは、計算値により鉛直面照度60,000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した)にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル(透過率53.6%)と黒地のジョーゼット(透過率35%)の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1,2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに抑えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

<設計及び工事監理者>

大高建築設計事務所

<施工者>

建築：(株)竹中工務店

設備：空調=東洋熱工業(株)

衛生=第一管工事(株)

電気=関東電気工事(株)

備品：天童木工，山口木工，佐々木ブラインド

<都市計画地域指定>

用途地域：準工業地域

<規模・面積>

敷地面積 33,057.87㎡

建築面積 8,777.94㎡

延床面積 10,663.57㎡

展示棟 6,343.02㎡

管理棟 2,818.89㎡

県民アトリエ棟 1,501.66㎡

駐車台数 97台

<工期及び建設経費>

(1) 第1期工事(展示棟) 5,194.59㎡
(建築面積5,102.35㎡)

○工期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円

本体工事 425,230千円

電気設備工事 79,663千円

空調設備工事 166,493千円

給排水衛生設備工事 28,995千円

外溝工事 67,705千円

ガス工事 7,881千円

(2) 第2期工事(管理棟) 2,274.60㎡
(建築面積1,089.50㎡)

○工期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453,800千円

本体工事 307,500千円

電気設備工事 30,000千円

空調設備工事 79,000千円

給排水衛生設備工事 19,514千円

外構工事 17,786千円

(3) 第3期工事(県民アトリエ) 1,501.66㎡
(建築面積1,449.34㎡)

○工期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370,000千円

本体工事 265,300千円

電気設備工事 35,000千円

空調設備工事 56,200千円

給排水衛生設備工事 13,500千円

○工期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円

外構工事 8,000千円

(4) 第4期工事(第8展示室1,148.43㎡・
収蔵庫544.29㎡) 1,692.72㎡
(建築面積1,136.75㎡)

○工期 昭和62年7月11日～昭和63年8月31日

工事費 747,500千円

本体工事 476,000千円

電気設備工事 81,000千円

空調設備工事 171,000千円

給排水衛生設備工事 19,500千円

総工事費 2,355,267千円

工期別面積一覧

(単位：㎡)

区分	地階	1階	2階	塔屋	合計
第1期	322.80	4,753.03	61.00	57.76	5,194.59
第2期	-	1,185.10	1,089.50	-	2,274.60
第3期	-	1,403.15	98.51	-	1,501.66
第4期	15.46	1,132.97	544.29	-	1,692.72
合計	338.26	8,474.25	1,793.30	57.76	10,663.57

<概要>

建物

【階数】

地下1階，地上2階，塔屋1階建

【高さ】

基礎底：GL-5.00m

高さ：GL+15.20m

【構造】

主体構造：鉄筋コンクリート造

屋根：鉄骨造

主鋼材：SS41及び高張力鋼

コンクリートの種類

A種・普通コンクリート(基礎・地中梁・1階
スラブ) $F_c = 210\text{kg}/\text{cm}^2$

B種・軽量コンクリート(梁・スラブ用・地上
部) $F_c = 300\text{kg}/\text{cm}^2$

C種・軽量コンクリート(地上部躯体でAB以
外の梁・壁など) $F_c = 240\text{kg}/\text{cm}^2$

【外部仕上げ】

外壁：珧器質タイル，一部コンクリート打放し

屋根：勾配屋根＝アスファルトルーフィングシート，天然
スレート3枚葺

陸屋根＝アスファルト防水，押えコンクリート，
豆砂利打込み

開口部：オーダーメイド自然発色サッシュ，一部型鋼グ
ラフホワイト処理サッシュ

【内部仕上げ】

展示室：床＝ビニールホモジニアスタイル

床＝自然石(北木島御影)円盤摺および本磨(第
7室)置敷きタイルカーペット(第8室)

壁＝石綿珪酸カルシウム，板下地クロス張り，
塗装仕上げ

壁＝コンクリート砕り仕上げ(第7室)

天井＝岩綿吸音板，塗装仕上げ

天井高＝3,240～13,500mm

事務室：床＝ビニールホモジニアスタイル

壁＝プaster塗装仕上げ

天井＝岩綿吸音板塗装仕上げ

天井高＝3,400mm

収蔵庫：床＝フローリングブロック

壁・天井=米杉(第1・2室)桐(第3・4室)
 天井高=3,400mm
 講堂:床=置敷カーベツト
 壁=マコレ練付け
 天井=クロス張り

第1・第2アトリエ:

床=ビニールアスベストタイル
 壁=コンクリート打塗装仕上げ
 天井=軟質石綿板

研修室:床=ビニールアスベストタイル

壁=クロス張り
 天井=岩綿吸音板

和室:床=玄晶石水磨き, タタミ, 桧家甲板

壁=京じゅらく塗
 天井=杉柂ベニヤ目透シ, 竿縁天井

設備

【電気設備】

受電方式:交流 3相3線式6,000V 50Hz
 電話交換方式:64回線デジタル交換機方式

【空調設備】

展示棟=CAV(定風量型)+VAV(可変風量型)方式

管理棟=VAV方式

保管庫=露点再熱制御方式

県民アトリエ棟=各室ハンドリング方式

熱源:空気熱源スクリュウ熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給水:ポンプ圧送方式, 引込み管径75mm

排水:汚水・雑排水合流方式系統(管径300), 雨水系統(管径300)別, 公設本管へ放流

【防災設備】

排煙方式:自然排煙, 機械排煙(第1, 2, 7展示室)

消化方式:屋外・屋内消火栓, 不燃性ガス消火設備
 (ハロゲン1301)

自家発電:ディーゼル機関直結交流発電機, 定格出力100kVA

火災報知設備:P型1級自動火災報知設備

【その他の設備】

防犯設備:ITVカメラ設備, 防犯警報装置

昇降機設備:荷物用エレベーター

規模:容量3,000kg, カゴ内法=3,000mm×3,000mm×3,000mm, 速度30m/min

展示棟

玄関ホール	102.40㎡
クロック	91.80㎡
倉庫 A	2.70㎡
倉庫 B	"
第1展示室	437.76㎡
" 2	400.82㎡
" 3	469.08㎡
" 4	403.20㎡
" 5	824.19㎡
" 6	330.58㎡
" 7	566.56㎡
" 8	864.61㎡
食堂	119.52㎡
厨房	36.00㎡
従業員控室	17.28㎡
食堂ホール	49.20㎡
ミュージアムショップ	12.00㎡
ロビー	335.52㎡
第1休憩室	23.04㎡
" 2	"
" 3	"
便所 A	30.24㎡
" B	23.76㎡

身障者用便所	7.92㎡
コントロール室	20.16㎡
フィルター室	28.92㎡
作業室	31.00㎡
発電機室	25.00㎡
電気室	123.20㎡
ポンプ室	76.80㎡
機械室	305.20㎡
機械室(新)	283.82㎡
高架水槽室	11.46㎡
E.V機械室	27.28㎡
E.V廻り	54.56㎡
ダクトスペース	35.68㎡
廊下等	123.48㎡
合計①	6,343.02㎡

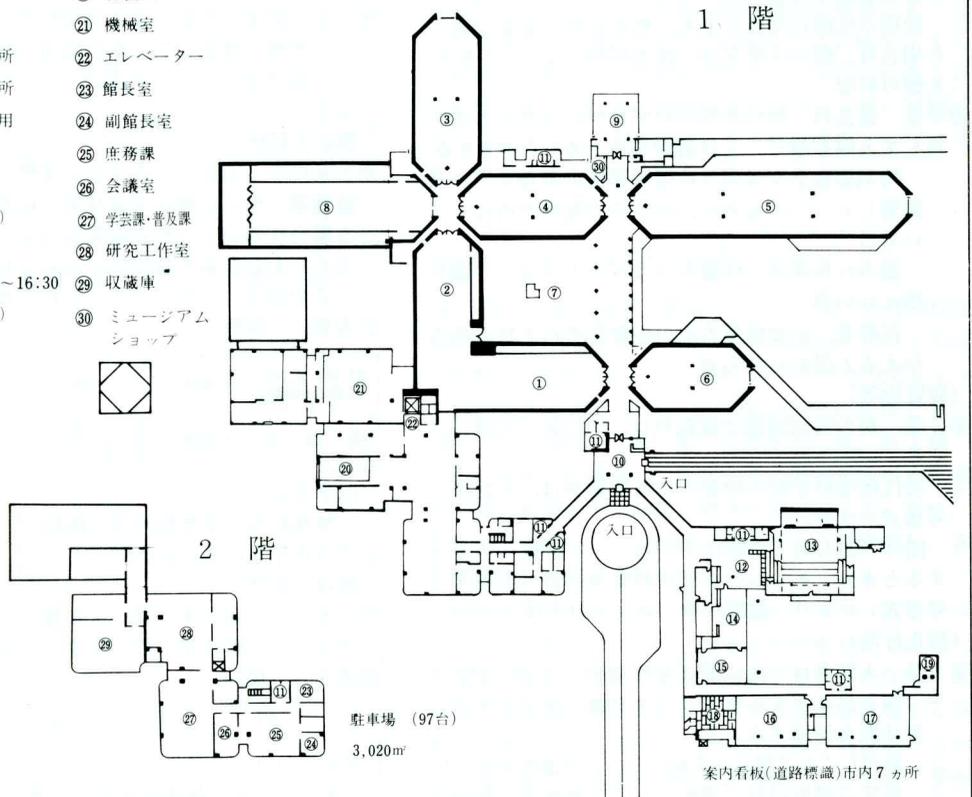
管理棟

(1階)	
第2会議室	22.62㎡
更衣室	14.83㎡
医務室	21.18㎡
書庫	22.02㎡
警備員室	43.59㎡
第1会議室	20.15㎡
倉庫	7.19㎡
湯沸室	5.19㎡
便所	24.54㎡
宿直室	34.20㎡
物置	9.92㎡
用務員室	31.83㎡
審査室・資料準備室・荷解室	520.68㎡
消毒室	31.79㎡
資料倉庫	124.25㎡
荷解梱包保管室	52.67㎡
荷扱人室	21.94㎡
機械室	51.74㎡
廊下等	123.52㎡
小計	1,183.85㎡

(2階)	便 所	21.50㎡	ホ ール 側 便 所	29.97㎡
館 長 室	湯 沸 室 A	3.24㎡	情 報 資 料 室	172.77㎡
副 館 長 室	” B	6.87㎡	情 報 資 料 室 倉 庫	4.70㎡
第 1 応 接 室	廊 下 等	60.94㎡	事 務 室	22.76㎡
” 2 ”	ダクトスペースその他	3.56㎡	研 修 室	74.70㎡
庶 務 課 室	小 計	1,635.04㎡	研 修 室 倉 庫	4.23㎡
会 議 室	合 計 ②	2,818.89㎡	第 1 ア ト リ エ	155.70㎡
学 芸 課・普 及 課 室	* 展 示 室 総 面 積	4,296.30㎡	” 2 ”	184.31㎡
学 芸 相 談 室	* 収 藏 庫 総 面 積	771.50㎡	” 3 ”	95.47㎡
研 究 工 作 室			ア ト リ エ 側 便 所	20.77㎡
写 真 ス タ ジ オ			荷 解 室	25.65㎡
器 材 室			窯 場	27.17㎡
暗 室			窯 場 倉 庫	6.66㎡
第 1 収 藏 室	県民アトリエ		ホ ール 其 他	352.67㎡
” 2 ”	1 F 機 械 室	25.92㎡	合 計 ③	1,501.66㎡
” 3 ”	講 堂 倉 庫	8.64㎡	総 合 計	10,663.57㎡
E . V 前 室	講 堂	259.24㎡	(①+②+③)	
	コ ン ト ロ ー ル 室	30.33㎡		

内 容

- ①～⑧ 展示室
- ⑨ 食堂(44席)
- ⑩ 玄関ホール
- ⑪ トイレ
 - 男子用6カ所
 - 女子用6カ所
 - 身体障害者用2カ所
- ⑫ ホール
- ⑬ 講堂(200人)
- ⑭ 情報資料室
火～金 12:30～16:30
- ⑮ 研修室(40人)
- ⑯～⑲ 実技室
- ⑲ 窯場
- ⑳ 搬出入口
- ㉑ 機械室
- ㉒ エレベーター
- ㉓ 館長室
- ㉔ 副館長室
- ㉕ 庶務課
- ㉖ 会議室
- ㉗ 学芸課・普及課
- ㉘ 研究工作室
- ㉙ 収蔵庫
- ㉚ ミュージアムショップ



関係法令等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例(昭和32年千葉県条例第4号)第20条に規定する博物館(以下「館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長(以下「館長」という。)は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

一 定期休館日 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第2条に規定する日に当たるときは、その翌日)

二 国民の祝日に関する法律に規定する休日

三 年始休館日 1月1日から1月4日まで

四 年末休館日 12月26日から12月31日まで

五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めたる日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めたる場合は、館の全部又は一部を開館することができる。
(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

一 特別展覧会又は現代産業科学館の映像ホールを観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しないもの

二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者

三 泥酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 現代産業科学館の映像ホール観覧券は、別記第2号様式とする。

3. 団体(20人以上の場合をいう。)で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書(別記第3号様式)により、館長に申し込まなければならない。
(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。

二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。

三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食をすること。

四 その他、他の入館者の妨げになるような行為を

すること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式(省略)

2. 使用料及び手数料条例(抜粋)

昭和31年3月31日条例第6号

(趣旨)

第1条 県が徴収する使用料および手数料(以下「使用料等」という。)に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

(使用料等の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設(以下「財産等」という。)の使用並びに特定の個人のためにする事務(以下「事務」という。)に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中略)

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例(昭和59年千葉県条例第3号)に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

別表第一(抜粋)

財産又は事務の種類	手数料	区分	単位	額
博物館	入館料	特別展覧会	1人1回につき	1,000円以内

(以下省略)

3. 使用料及び手数料規則(抜粋)

昭和31年千葉県規則第29号

(徴収の特例)

第7条の2 条例第8条の2の規程による規則で定めるものは、別表第六のとおりとする。

別表第六(抜粋)

行 事 等	施 設
県民の日(6月15日)。 65歳以上の者、身体障害者(介護者を含む。)又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

平成6年度主要事業

企画展

常設収蔵作品展

本館が収蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の中から、年間を通じテーマ等に基づき展覧するほか、新たに収蔵された作品を紹介します。

- ・新収蔵作品 4月1日(金)～5月8日(日)
- ・宮之原謙の陶芸 //
- ・フォンタネージと浅井忠 5月14日(土)～6月19日(日)
- ・石井林響の日本画 6月25日(土)～7月17日(日)
- ・浜口陽三、深沢幸雄の版画 //
- ・素描の世界 //
- ・房総の染織 11月12日(土)～1月22日(日)
- ・描かれた房総 11月26日(土)～1月22日(日)
- ・水彩画の世界 1月28日(土)～2月26日(日)
- ・香取秀真、津田信夫の金工 //
- ・浅井忠 3月4日(土)～3月26日(日)

第18回千葉県移動美術館

- 夷隅町文化会館 11月18日(金)～11月30日(水)
- 成田国際文化会館 12月3日(土)～12月18日(日)

優れた美術作品を、より多くの県民の方々に鑑賞していただくため、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各分野から館収蔵作品を中心に巡回展を開催します。

特別展

イタリア・謎と神話—

1930年、60年、90年の絵画

5月14日(土)～6月19日(日)

永い伝統を持つイタリアの美術は、伝統性に立脚しながらも常に新しいものを生み出してきました。しかも、その伝統と革新は反発しあうのではなく不思議なバランスをたもちながら発展してきました。特にバランスが保たれたと言われている1930年、60年、90年を中心とした時代の表現には、このようなイタリア美術の特徴が最もよく表れており、カッラ、デ・キリコ、フォンタナ、マンゾーニ等の世界的な作家を生み出しました。

本展では、イタリアの現代美術を伝統性と革新性という視点でとらえ、時代を概観します。1930年では古典的絵画の影響が見られる具象的作品の伝統性に、1960年ではこれまでの絵画の既成概念を破壊しようとした革新的な活動に、そして1990年では伝統をふまえた革新的な表現にそれぞれ注目し、各年代の前後5年間の間に制作された代表的作家の作品を一堂に展観することによって、20世紀のイタリアが模索しつづけてきた新しい絵画表現を紹介します。

房総の美術—昨日から明日へ—

- 〔第1部〕洋画、版画、彫刻 7月23日(土)～8月28日(日)
- 〔第2部〕日本画、工芸、書 9月3日(土)～10月9日(日)

本館は、昭和49年10月に開館し、平成6年10月をもって満20周年を迎えます。この間、10年記念展として「浅井忠記念賞展」(第1部 浅井忠作品展、第2部 全国公募展)を開催し、本県出身の近代洋画の先駆者浅井忠の顕彰とその画風の継承に努めました。また、15周年記念展として「房総と近代美術」を開催し、本館収蔵作品の紹介を行いました。

今回の20周年記念展では、房総に生まれ、あるいは在住した作家のなかから、日本近代美術史上で活躍した作家、美術の振興に重要な役割を果たした作家、また現在我が国の美術界をリードする本県を代表する作家の代表的な作品を展示し、近代美術の創設期から今日に至るまでの房総の美術史を回顧し、日本近代美術史上に房総が果たした役割を紹介し、明日への展望をさぐります。

講演会 特別展、企画展に関連し、年4回開催

実技講座

No.	講座名	開設日時(12:30~16:30)	日数	定員	講師
1	日本画講座	6月14日(火). 15日(水). 16日(木). 18日(土). 19日(日). 21日(火). 22日(水). 24日(金). 25日(土). 26日(日). 28日(火). 29日(水)	12 (7)	20	斉藤 惇
2	洋画講座	5月24日(木). 25日(金). 26日(水). 28日(木). 29日(金). 31日(金). 6月1日(水). 2日(木). 3日(金)	9 (6)	30	松沢 茂雄
3	版画講座	7月5日(火). 6日(水). 8日(金). 9日(土). 10日(日). 12日(火). 13日(水). 14日(木). 16日(土). 17日(日). 19日(火). 20日(水)	12 (7)	20	増田 陽一
4	彫刻講座	9月1日(木). 2日(金). 3日(土). 6日(火). 7日(水). 8日(木). 9日(金). 10日(土). 13日(火). 14日(水)	10 (6)	15	石橋 亘
5	陶芸講座	10月18日(火). 19日(水). 20日(木). 21日(金). 11月22日(火). 29日(火). 12月7日(水)	7 (5)	30	鎗田 和平
6	金工講座	1月18日(水). 19日(木). 20日(金). 21日(土). 24日(火). 25日(水). 26日(木). 27日(金). 28日(土) 2月1日(水). 2(木)	12 (7)	15	小林 正利
7	書芸講座	11月9日(水). 10日(木). 11日(金)	3 (3)	25	中村 象閣

() は講師の指導日数

平成6年度職員

館長 木村 卓
副館長 小池 賢博
副館長 桐谷 正義
兼庶務課長

庶務課

主任主事(派) 大堀 昭一
主事(〃) 積田 秀樹
(〃) 川内 啓子
主任用務員(〃) 長島 則子

学芸課

学芸課長 前川 公秀
研究員(派) 高橋 正夫
主任技師(〃) 幅 大
技師(〃) 中松 満始
〃 (〃) 加瀬 綾子
〃 (〃) 三浦 拓郎

普及課

普及課長 藤川 正司
研究員(派) 津田 昇
〃 (〃) 濱田 芳久
〃 (〃) 金田 雅成
主任技師(〃) 相川 順子

利用案内

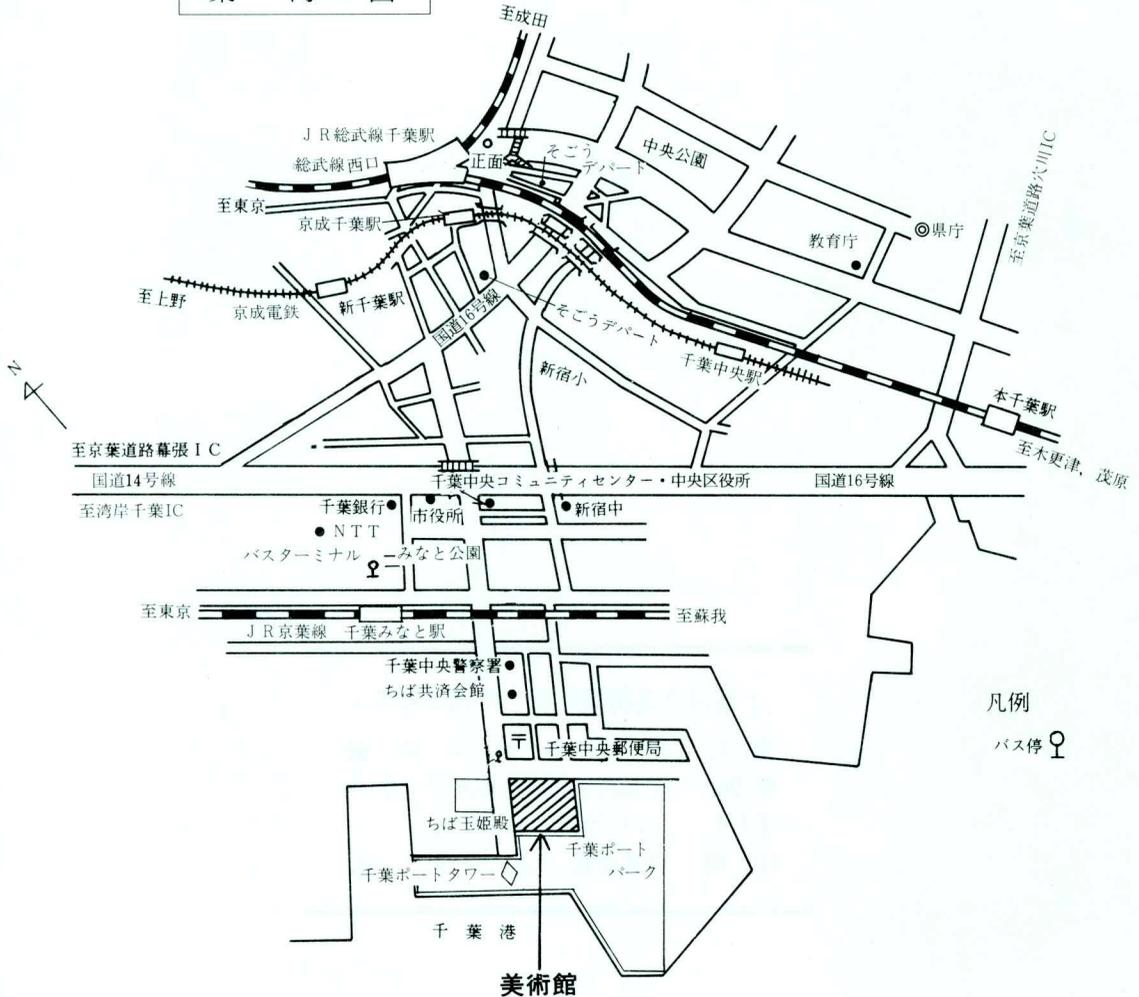
開館時間

- 開館時間 午前9時から午後4時30分まで
- 休館日
- ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
 - ・年末年始（12月26日～1月4日）
 - ・展示替え等のため、必要があるとき。
- 観覧料
- ・無料（ただし、特別展は有料）
- 団体観覧
- ・団体で来館されるとき、あらかじめ御連絡いただければ館の概要や事業等のガイダンスをいたします。

交通

- ★JR 総武線千葉駅下車
 - 徒歩23分。
 - バス16番（千葉そごう前）のりばから「千葉ポートタワー」行にて15分、「県立美術館前」下車、徒歩1分。
- ★JR 京葉線千葉みなと駅下車、徒歩8分。

案内図



千葉県立美術館年報（平成5年度）

発行 千葉県立美術館

〒260 千葉市中央区中央港1-10-1

TEL 043 (242) 8 3 1 1

印刷 株式会社 正文社

